

さまざまな人が支え合う
お互い様の地域づくり
事例集

平成30年度

この事例集について

この事例集は、「さまざまな人が支え合うお互い様の地域づくり推進事業」の一環として作成したものです。滋賀県内の各地域で取り組まれている助け合い活動のきっかけや実現までの経緯、継続するノウハウなどについて、地域でこれから取組を始めようとする方へのモデルになるような視点で分野別に事例をご紹介します。

※「さまざまな人が支え合うお互い様の地域づくり推進事業」は、滋賀県と認定特定非営利活動法人街かどケア滋賀ネットとワーカーズコープ・センター事業団関西事業本部との協働により実施しているものです。

掲載の事例について

この事例集で紹介している事例は平成30年度に各団体へお尋ねし、ご回答いただいたものです。

活動の内容や拠点、連絡先などは変更になる可能性がありますのでご了承ください。

事例ページの見方

同一の拠点・団体にて複数の支援を行っている事例が多いことから、事例ページの左上には活動の内容を簡単にアイコンで表記しました。

活動の概要と活動拠点の所在地を左上のアイコンで簡単に表示しています。

拠点や活動の様子を写真で掲載しています。

団体の基本情報と活動内容、実現までの経緯などを紹介しています。

利用者・活動者の声、継続のためのノウハウなどを掲載しています。

居場所
愛宕町

いつも気軽に集まりくつろげる場

■活動内容
愛宕町長野地区で民家を改修して居場所づくりを実施
毎月第1、第2、第3月曜日 13時～16時
海の日(祭日) 子どもさんとの交流会
4月第1日曜日 桜見実施
5月開所日 11時～14時記念祭
9月第3日曜日 敬老の日 (おほき作り、スタッフと利用者みんなで実施)
12月第3日曜日 クリスマスパーティー実施

■団体名 なごみの郷 代表者 千原高造
■参加者 7名
■活動拠点 愛宕町長野2124-6番地
■連絡先 TEL・FAX: 0749-42-6178

■活動のきっかけ・実現までの経緯
長野未来づくりを合言葉に従来のビジョンをまとめた平成18年度の字総会で決められました。地域福祉の大事な取り組みの一つとして、高齢者がいつも気軽に集まりくつろげる場(フリースペース)、又高齢者をはじめ子ども達から区民誰もが自由に集まり使える長野の公共の「家」として県の地域助成事業「あったかほーむづくり事業」があり、協力と支援をいただきました。「長野にとって重要な地域福祉の一環であり、区民総意で取り組むべきものである」と評議員会で決定しました。
区民皆様のご理解を賜り、区民各位のご協力をお願いしてフリースペースの整備費が集まり、平成18年5月13日にオープンして今日に至っています。

利用者さんの声 **活動者の声**

利用者同士がしたいことを自分たちでできるので、楽しく時間を過ごす事ができます。回数を増やしてほしいです。

開所日には介護保険認定者も来られ、デイサービスに誘いながらも、来てくれています。中には順番を楽しみに集まれる方もいます。また本の貸し借りや、トランプ、畑の作り方・収穫の話など話話が弾みます。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ
開所以来12年になりました、利用者、活動者さんも年齢とともに変化してきました。アンケートを2年に一回取り、少しずつ変えて継続できるようにしています。
また村づくり委員会の組織を残しその一環としての福祉活動の場という位置づけがあり、区からの補助金もあり、安定した活動が継続できています。活動経費としてアルミ缶の回収も実施しています(地域の皆さんが持って来てくれます)。

活動事例 索引

居場所・カフェなどの活動や、生活の支援を行っている事例が多いことから、この事例集では大きく「居場所など」「生活支援など」「子ども支援」「除雪」の順に、市町ごとにまとめて掲載しています。同一の拠点・団体に、複数の支援を行っている事例については、下記アイコンで表示しています。

活動内容 アイコン	居場所	生活支援	買物支援	配食	除雪
	子ども食堂	子ども居場所	子ども見守り	子育て支援	エコ活動

◎ 居場所・カフェなどの活動を実施している事例 ◎

●大津市			
・瀬田商工会「めんどうみサービス」	居場所	生活支援	P.9
～地域住民と事業者が顔の見える関係づくり～			
●彦根市			
・さんあかサロン「ふれあいの館」	居場所		P.10
～参加者主体のサロン活動～			
・ナルクの館シニアサロン	居場所		P.11
～生涯現役を合言葉に活動～			
・ふれあい交遊広場「なごみ」	居場所		P.12
～自由な居場所が好評～			
・小泉町安心安全助け合いパートナー	居場所	生活支援	P.13
～安心安全の助け合い町づくり～			
・若葉会	居場所		P.14
～小学校の空き教室を活用～			
●近江八幡市			
・商助	居場所	生活支援	P.15
～近江八幡市ささえあい「商助」推進事業登録制度～			
●草津市			
・宅老所心「かやぶき心」	居場所	子ども食堂	P.16
～「かやぶき心」で居場所づくり～			
・地域支え合い活動拠点「ゆかい家」	居場所		P.17
～笑顔が笑顔を生む、愉快的な「ゆかい家」～			

活動事例 索引

◎ 居場所・カフェなどの活動を実施している事例 ◎

●甲賀市				
・甲南町「すこやかKサロン」	居場所			P.18
～健康を味方に、これからを存分に満喫～				
●湖南市				
・もえポテト	居場所	エコ活動		P.19
～イモ発電につながるサツマイモの空中栽培～				
・ひだまり	居場所			P.20
～誰もが気楽に寄って、しゃべれる場所～				
・北山台「ひまわり」	居場所			P.21
～自治会館を誰もが使える空間に～				
●高島市				
・まちあかり	居場所	買物支援	配食	子ども食堂
～自治会域を超え、皆が寄れる場がある～				
・ふれあいクラブ浜分	居場所			P.23
～区民みんなで見守れる地域に～				
・マキノ町「寄里藍」	居場所		子育て支援	P.24
～いつでも、だれでも、囲炉裏で【寄里藍】～				
・寄り合い処「くつつき」	居場所			P.25
～いろいろな人や物、資源が「くつつき」ますように～				
・ナルクびわこ高島	居場所		生活支援	P.26
～生きがい・助け合い・自立・奉仕がモットー～				
●東近江市				
・中野ヴィレッジハウス	居場所			P.27
～世代を超えて繋がる場～				

活動事例 索引

◎ 居場所・カフェなどの活動を実施している事例 ◎

●米原市					
・お茶の間創造事業	居場所	生活支援	P.28		
～米原市お茶の間創造事業～					
・大野木長寿村まちづくり会	居場所	外出支援	配食	子ども食堂	P.29
～進化を重ねる「まちづくり会社」～					
・世継サロン	居場所	生活支援	配食	P.30	
～お茶の間でサロンを活性化～					
・野一色みまもりたい	居場所	生活支援	P.31		
～地域の福祉活動の拠点に～					
・河内区福祉委員会	居場所	P.32			
～最先端の取り組みも～					
・池下お茶の間「ほっこり」	居場所	P.33			
～いつでも誰かと話せる私のお茶の間～					
●竜王町					
・林地区「りんりんちょボラ」	居場所	生活支援	P.34		
～りんりんちょボラ（林の隣人）で助け合い～					
●愛荘町					
・なごみの郷	居場所	P.35			
～いつも気軽に集まりくつろげる場～					
●多賀町					
・大杉サロン「しゃくなげの会」	居場所	生活支援	P.36		
～地域生活を支える・おたがいさまの地域づくり～					
・栗栖サロン「ヒヤシンス」	居場所	生活支援	P.37		
～サロンからもう一歩介護予防へ～					

活動事例 索引

◎ 生活支援・外出支援などの活動を実施している事例 ◎

●長浜市		
・元氣かい	生活支援	P.39
～元氣な仲間のまちづくり～		
・西黒田きんたろうサポート会	生活支援	P.40
～きんたろうのように強く・優しく・元氣よく～		
・かんだサポート会	生活支援	P.41
～身近な地域の助け合い活動～		
・スマイルサポート西浅井	生活支援	P.42
～笑顔で暮らせる地域づくり～		
●草津市		
・宅老所心「お助け隊」	生活支援	P.43
～ちょっとした困りごとに手が行き届く助け合いの輪～		
●高島市		
・朽木外出サポート隊	生活支援	P.44
～「明日は我が身」診療所への外出支援～		
・元氣な仲間「たすけあい高島」	生活支援	P.45
～困ったときはお互いさま！住民同士のたすけあい～		
●東近江市		
・あいとうふくしモール「ほんなら堂」	生活支援	P.46
～ほんなら堂（Do）活動～		
●県下全域		
・コープしが「ささえあいサポート」	生活支援	P.47
～よりよい暮らしを共につくる協同としての福祉～		

活動事例 索引

◎ 子どもの見守り・居場所などの活動を実施している事例 ◎

● 湖南省

・ わんわんパトロール

子ども見守り

P.49

～「歩く110番」児童のみまもり隊員・隊犬～

● 高島市

・ 藤江区「子どもの家」

子ども居場所

子ども見守り

P.50

～学校からの帰り道、みんなで宿題やってます～

◎ 除雪の活動を実施している事例 ◎

● 彦根市

・ 太平団地除雪ボランティア

除雪

P.52

～雪が降っても、安心して暮らせるように～

居場所・カフェなどの活動 を実施している事例

地域住民と事業者が顔の見える関係づくり

■活動内容

商工会と地域の自治連合会および社会福祉協議会が連携し、「地域商業」と「地域福祉」を相互に連動させながらそれぞれの質の向上を目指す取り組みです。

具体的には、地域住民(特に高齢者)をターゲットに、日常生活の困り事に対応する「めんどうみ(御用聞き)サービス」をはじめ、生鮮食品や生花等を自動車や自転車で巡回販売する「移動販売」、地域住民と事業者が顔の見える関係作りを構築する為の地域コミュニティイベント「絆まつり」や、生活に役立つ体験型講座「絆カフェ」、建部大社参道において生鮮や地元特産品等を販売する朝市「唐橋しじみ市with勢多市」を開催しています。

移動販売 (毎週水曜日9:00頃～13:30頃まで管内6か所を巡回)

絆カフェ (毎月1回土曜日に商工会館で開催)



■団体名 瀬田商工会 絆づくりビジネスネットワーク

■参加者 会員33名

■活動拠点
連絡先 大津市大江四丁目18番10号 瀬田商工会事務局内
代表 浦松さん(めんどうみサービス専用ダイヤルを設置)
TEL:077-545-2137 FAX:077-543-1404
mai:info@setacai.com

■活動のきっかけ・実現までの経緯

大型店出店や事業主の高齢化による廃業増加を背景に、顧客目線に立った手厚い『非効率経営』の経営手法を管内の小規模事業者が導入する事で活性化を図るため、平成23年度に商工会長の諮問機関として、商工会役職員をはじめ、まちづくり団体・自治連合会を中心に絆づくり経営委員会を立ち上げて事業を検討したのがはじまりです。

委員会において、大津市東部6学区自治連合会より、地域の問題としてオレオレ詐欺や小売店の減少等で高齢者の買い物弱者支援問題が深刻化していることから、自治連合会の協力でアンケート調査を実施しました。その結果約6割近い高齢者が「買い物」や「修理・修繕」に困っている事がわかり、平成24年7月より絆づくりビジネスネットワークを結成、本プロジェクトに取り組んできました。



利用者さんの声

自宅の電灯スイッチの調子が悪かったのですが、普段量販店等で家電品を購入するので、小さな修理等をどこに頼めば良いか困っていたところ、めんどうみサービスのチラシ等を拝見して商工会に電話。

すぐに地元の専門業者の方がこられて、丁寧に対応していただき助かりました。大変親切で便利なサービスなので、その後もファンヒータの買換えやテレビアンテナの工事等で相談に乗ってもらっており、満足しています。(79歳男性)

活動者の声

本事業により、自治連合会や社会福祉協議会とも協力体制が構築でき、各団体・組織の課題等の情報共有を図る事が出来る委員会の役割は、地域内資金循環を目指す商工会において、非常に大きい。

また、めんどうみサービスの出張対応からリフォーム依頼に繋がったり、移動販売の取組により、大手企業との取引に繋がる等地元商工業者と地域住民の橋渡しができた。また「唐橋しじみ市with勢多市」では、地域の賑わい創出や、観光雑誌の掲載等、観光客の誘致や地域ブランドである瀬田しじみのPRにも貢献出来た。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

これまで継続してきた要因としては、地元自治連合会代表や学識経験者を委員とし、地元自治体をオブザーバーとする「絆づくり経営推進委員会」を設け、本ビジネスネットワークの活動の公益性を担保してきたことが大きいと思われます。利用者にも自治会や社協と連携した事業であるという安心感が生じ、利用者の増加につながっています。

ニーズが高く利用者も安定傾向ですが、福祉的な側面もあることから、現在のメンバーだけの対応には限界があり、対応力・サービスの質の低下に繋がる恐れがあります。また、補助金がなくなった後も自主的に運営可能な基盤作りが急務です。

居場所

彦根市

参加者主体のサロン活動

■活動内容

開催日時: 毎週火曜日 10:00~15:00

場所: 彦根市鳥居本町1702
鳥居本宿交流会館さんあか ふれあいの館

内容: 茶話会、食事会
ゲーム(カロム・トランプ・マーじゃん)

参加費: 1回100円



■団体名

さんあかサロン「ふれあいの館」
代表者 藪野光子

■参加者

会員15名~20名(鳥居本学区住民)

■活動拠点 連絡先

社会福祉法人彦根市社会福祉協議会
地域福祉課地域サポート係(彦根市鳥居本町)
TEL: 0749-22-2821 FAX: 0749-22-2841
mail: hikoshachiiki@mirror.ocn.ne.jp

■活動のきっかけ・実現までの経緯

平成28年に立上げた団体で、自治会関係なく学区内の誰もが立ち寄れるサロンです。はじめは月に2回のサロンを開催していましたが、高齢者の引きこもりの軽減や生きがいづくりを目的に、平成30年4月から毎週の開催にしました。さらに、立ち上げ当初は参加費は無料でサロンを運営していましたが、1回100円の参加費を徴収し、活動に広がりをもてるようになりました。

こういったサロンの運営については参加者の意見を聞きながら、皆と一緒にすすめています。



利用者さんの声

90歳を過ぎた人が、「こんな楽しい人生があったのか」と喜ばれたり、「みんなでお喋りすることで体調が良くなり、お医者さんも驚かれた」という方も居られます。

活動者の声

参加者はお客さんではなく、みんなで楽しく過ごせるように話し合いをして、それぞれのできる事や得意な事を活かし、参加から積極的な参画をしてもらっています。

サロンの参加を促すために、新たにマーじゃんゲームを取り入れたり、週一回の会食を通して健康づくりに取り組むなど、サロンの充実を図っています。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

サロンが長く続くように、負担のない運営を心がけています。高齢者が安心して集まれる居場所づくりを目指して、地域に根差したこの「ふれあいの館」に、いつも笑いと楽しい会話が弾み、いつまでも続いていくことを願っています。

居場所

彦根市

生涯現役を合言葉に活動

■活動内容

開催日時:火曜日 10時～15時

場所:平和堂銀座店3階

内容:金亀体操、友遊クラブ(手芸活動)、卓球、
談話、読書、お茶等を通して 高齢者の交流を図っています。

〈スケジュール〉

午前・午後:卓球・談話・読書・お茶

12時40分～金亀体操 13時30分～友遊クラブ(手芸活動)



■団体名

ナルクの館シニアサロン
代表者 小林 博

■参加者

対象者:市民 ※定員:20名

■活動拠点 連絡先

彦根市銀座町6-10 平和堂銀座店3階
連絡先:社会福祉法人彦根市社会福祉協議会
地域福祉課 地域サポート係
TEL:0749-22-2821 FAX:0749-22-2841
mail:hikoshachiiki@mirror.ocn.ne.jp



■活動のきっかけ・実現までの経緯

ナルクは自立・奉仕・助け合いをモットーに、社会参加と相互扶助精神に基づき、地域社会全体の利益と福祉の増進に寄与することを目的に活動するボランティア団体です。

「高齢者だけでゆっくり話がしたい」「仲間と手芸や書などの趣味を楽しみたい」

そんな高齢者の要望を満たしたいとの思いがきっかけ。ボランティア活動を通じて地域の人に喜んでいただくことに「生きがい」を感じて、生涯現役を合言葉に活動しようと『ナルクびわこ彦根』を立ち上げました。



利用者さんの声

参加して楽しい。
参加できたことで気持ちに活力が生まれた。
参加者で初めて忘年会をして、楽しかった。
みんなと和気あいあいと交流できて、新しい仲間もできた。ここに来ると元気になれる。

活動者の声

人との輪がたいせつ。ナルクの広報誌「湖風」を復活させ、より一層、活動を活性化させていきたい。
もっと多くの方に参加してもらえるようにいろいろ工夫しながら取り組んでいます。参加して下さる、皆さんの喜ぶ声がうれしいです。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

参加者や活動者のそれぞれの個性を大事にし、コーディネートしています。
役割を持ってもらうこと、やりたいことができる、みんなのできる雰囲気を作っています。
参加費として1回100円をいただき、自由で楽しい環境を提供しています。

居場所

彦根市

自由な居場所が好評

■活動内容

開催日時:毎週火・木・金曜日 9:00～12:00

場所:日夏ニュータウンⅡ期集会所
日夏ニュータウン1区自治会館
日夏ニュータウン第4自治会館

内容:カラオケ、トランプ、麻雀、談笑など

参加費:100円



■団体名

ふれあい交遊広場なごみ
代表者 赤田 明

■参加者

おおむね65歳以上の市民

■活動拠点 連絡先

彦根市若葉学区
赤田 明
TEL:0749-25-3521



■活動のきっかけ・実現までの経緯

「地域のなかで集まりの場が欲しい」という住民の声をきっかけに、何かしなければと思い、居場所の提供を考えたことがきっかけになりました。民生委員を経験した人や学校ボランティアなど、地域のさまざまな活動に従事している人たちが中心になって、宅老所を運営しています。

平成30年10月からは学区内に3か所目を立ち上げ、地域の居場所づくりに積極的に取り組んでいます。



利用者さんの声

- ・気軽に行くとこがなかったので歩いていける範囲にこういう場所ができてうれしいです。
- ・来るとおしゃべりができ好きなことを楽しめるので毎回来るのが楽しみです。
- ・宅老所では自分の好きなことができ、出入りも自由なのでその雰囲気が好きで通っています。

活動者の声

参加者が思い思いにやりたいことを楽しみながらされています。また、時間も午前中いっぱい過ごせるように会館を開放しており、参加者は好きな時間に来て帰れるという自由さや気楽さがあると思っています。

同じように思いを持った人が増え、こういう場所が学区内にさらに増えてくればいいです。昨今の高齢化社会を見据えて、自治会で見守り福祉マップの作成を実施しています。その他生活支援ボランティアについても検討を始めたところです。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

とにもかくにも担ってくれるスタッフ、協力してくれる人の確保が一番大変です。特定の人に負担が偏らないようにボランティアスタッフがそれぞれに役割分担を行い、協力できることやサポートできることをしています。定期的にミーティングを行い、活動の振り返りを共有しています。

■活動内容

- ①ヘルプ
活動日時: 依頼時
内容: 見守り合い・資源ごみ(古紙回収)の手伝い・葉狩り・草むしり
- ②あったかサロン
開催日時: 第1・3月曜日、第2・4土曜日 / 参加費: 100円
場所: 彦根市小泉町771 / 内容: 茶話会・ゲーム・脳トレ・合奏・手芸など
- ③ウォーキング
活動日時: 週1回程度、約1時間 / 内容: ウォーキング
- ④菜園
活動日時: 随時 / 内容: 野菜作りなど



■団体名 小泉町安心安全助け合いパートナー（SSP）
代表者 川島順次郎

■参加者 彦根市小泉町（城南学区）

■活動拠点
連絡先 小泉町安心安全助け合いパートナー（SSP）
本部：090-3278-2083

■活動のきっかけ・実現までの経緯

平成27年に、元老人会長を経験した者6人が発起人となり、「助け合いのまちづくりを目指した仕組みをつくろう」と検討を重ね、町民対象の大きがかりなアンケートも併せて実施し、SSPを立ち上げました。活動の幅を徐々に広げ、部会に分かれて活動しています。町内で会員を募り、100名を超えました。元気な人だけを募っているのではなく、「助け合い町づくり」の趣旨に賛同する人は誰でもOKとしています。

利用者さんの声

サロン・ヘルプ・ウォーキング・菜園活動への参加者はいつも生き生きとして、元気をもらっている。90歳を超えた人も何人か居て、サロンが待ち遠しいとのことである。

高齢者には「歩いて10分」がノーマルと言いたいところだが、20分くらいかかる人もいたり。1300戸もあると、皆に知らせたいことが山ほどあっても、広報活動が大変である。

活動者の声

口で助け合おうと言うのは容易だが、これだけ地域コミュニティ意識が薄らいだり、各自が生活に追われて余裕がなくなったり、自分のことは自分でといった自分責任論の風潮が広がってくると、「助け合い町づくり」も容易なことではない。イベントをすることで満足はしてられない。

人々の「絆」「つながり」をどうしてつくるか、目をかけ気にかけて、声かけ合う地域づくりは、子どもたちも参加しての地域運動にしていきたいものである。サロン・ヘルプ・ウォーキング・菜園もそれを目指しての取組である。そのためには、さらにSSPがリード役となり町内会や町内各種団体に声をかけ、「あいさつ・声かけ」運動を進めていきたい。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

備品やボランティア保険など、自治会からのバックアップもあり有難いです。

居場所

彦根市

小学校の空き教室を活用

■活動内容

開催日時:毎週月・水・金曜日9:00～10:00

場所:若葉小学校空き教室

内容:金亀体操、認知予防ゲーム等、談笑
年6回イベント(コンサート、認知予防教室、3B体操)
年4回体力測定
健康推進員教室参加、広報誌作成、棒サッカー



■団体名

若葉会
代表者 小野林 良子

■参加者

市民

■活動拠点 連絡先

彦根市若葉学区
小野林 良子
TEL:090-7346-8125

■活動のきっかけ・実現までの経緯

学区内に高齢者が増えてきたため、介護”ゼロ”を目指して何かできないかと思い、コツコツ体操と出会ったことが発端になりました。また、小学校の空き教室があり、何か居場所づくりができないか、ということで始めたのがきっかけです。



利用者さんの声

- ・だらだらしないで1時間みっちりしたら終わるので集中して参加できる。
- ・みんなで参加することで笑いやおしゃべりができ脳トレや認知症予防にもつながる。
- ・体操に参加することが生きがいになっている。
- ・歩いて行ける距離にあるのが嬉しい。

活動者の声

学区内住民を中心に40名～50名が参加(※曜日によって参加者の変動あり)。40～90代の参加者で健康に対し積極的に取り組む姿勢があります。介護を受けない身体づくりを目標とし、ピンピンコロリを目指しています。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

一人1000円の年会費をいただき、広報誌の印刷費用などはその中から拠出しています。体操だけを一緒にするのではなく、笑いや声を出すことを会の中で勧めて、参加者が一体となって場を盛り上げています。若葉会の活動が全国の高齢者の目標になる会にしたいです。

■活動内容

地域での支え合いの推進を図るため、それぞれの事業活動を通して、実際の事業活動以外に高齢者が自立した生活が維持できるような支援やサービスを提供する取り組みを行う事業者を支え合いの推進事業者として登録する制度です。

【具体的な取り組みの例】

- ・買い物時の支援、商品の配達
- ・高齢者の雇用、交流の場、特技披露の機会の提供
- ・電池交換や部屋の模様替えなど、暮らしの困りごとへの対応

■団体名	近江八幡市
■参加者	平成31年1月末現在 16団体登録 ※詳しくは市HPをご覧ください↓ http://www.city.omihachiman.shiga.jp/contents_detail.php?co=ser&frmlid=14362
■活動拠点	近江八幡市土田町1313番地 近江八幡市福祉保険部長寿福祉課 TEL：0748-31-3737

■活動のきっかけ・実現までの経緯

地域独自の社会資源を有効に活用するため、住民主体の地域福祉の推進とは別路線で、「商助」と銘打って官民連携を推進しています。

有識者を招いた商助推進会議やセミナー、シンポジウム等を通じて、民間事業者等と合意形成を得つつ、しくみづくりの検討をしています。

利用者さんの声	活動者の声
<ul style="list-style-type: none"> ・コミセンが近いし、コミセンまで行くのも運動になります。買い物支援が始まるまでは、定期的に行く機会もなかったです。ちょうど免許を返し、この辺は本当に何もなし、大助かりです。 ・毎週コミセンまで自転車で来て利用しています。休んだことはありません。運転は得意ですが、子どもを安心させようと思い、やめました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「商助」という言葉には、最初違和感がありましたが、商売の「商」は秋に物々交換を行うのが語源なんですね。それが経済、社会になって貨幣が流通して、ものを買う中でお互いが成り立つ、まさに「三方よし」ですね。その仕組みだとわかったときに、「商助」は素晴らしい言葉だと理解できました。 ・買い物支援の利用者さん75歳以上の人が、健康推進員と一緒に料理教室を開きました。みんなでいろんなお話をしながらワイワイと料理を作って食べ、楽しい時間を過ごすことが出来ました。今までお話をしたことがなかった人も買い物支援をご利用いただくことから、コミュニティセンターを拠点にさまざまなつながりが生まれています。この輪をどんどん広げていけたらいいなと思っています。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

単なる地域貢献ではなく、近江商人の三方よしの精神を地域活動に活かす商助の概念を言語化することによって、理解促進、定着につながりました。民間事業者、住民、地域包括支援センターやコーディネーターの参加する商助推進会議において、アドバイザーの牽引の下、目指すべき姿の共有を丁寧に行いました。

居場所 子ども食堂

草津市

「かやぶき心」で居場所づくり

■活動内容

- ・かやぶきランチ:地域の人の交流の場として食堂を開催、ランチ・コーヒーを提供
毎週火曜日と第1、第3木曜日の11時から15時頃
第1火曜日と第3木曜日は、認知症の人と家族の会が来られ懇談や相談
ランチ500円、コーヒー100円
- ・地域居酒屋:地域の人の交流の場として地域居酒屋を開催
第1、第3金曜日の18時から20時頃
7種類程度の料理を提供
1000円(飲み物は原則持ち込み)
- ・子ども食堂:地域の子どもの食事と居場所を提供
第2、第4木曜日の16時30分から19時頃
子ども100円、大人300円



■団体名

特定非営利活動法人 宅老所心
理事長 村田美穂子

■参加者

地域住民

■活動拠点 連絡先

草津市駒井沢町343番地
TEL : 077-568-3186 FAX : 077-558-8225
mail : kokoro115@triton.ocn.ne.jp



■活動のきっかけ・実現までの経緯

地域の方と地域包括支援センター、当法人が集まって地域の中でどのようなものがあればよいかなどを話し合ってもらいました。

その中で、居場所と助け合いが必要との意見が出たことから、当法人の事業として地域の方の協力をいただきながら、法人がスタートした「かやぶき心」で居場所づくり事業を実施することとなりました。

- H22 地域における話し合い
- H26. 8 地域居酒屋
- H28. 6 ランチ
- H30. 2 子ども食堂



利用者さんの声

- ・地域の中で居場所や仲間ができて、「ここに来ればみんなに会える」という安心感ができた。
- ・かやぶき心に来て、ご飯を食べながら色々な話をして来るのが楽しみになった。
- ・普段生活しているだけでは聞けないような話が聞き、地域の情報などを知ることができて生活していくうえでも役に立つ。

活動者の声

「食を通じた地域づくり」をテーマに行っています。「食べること」で自然と笑顔がこぼれ、会話も弾み、徐々にですが広がりを見せていると思います。居酒屋のスタッフも地域の人と一緒に話をさせていただく中で、知らない地域の情報を教えていただき勉強にもなっています。また子ども食堂のボランティアさんも、一人暮らしで普段なら10分もかからない夕食が、子どもたちと話しながら食べていると、楽しく生活の張りもでてくるとおっしゃっていただいています。子ども食堂では大学生もボランティアに来ていただいています。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

居場所は一つあればいいというものではありません。色々な地域に多様な居場所ができていくことを願います。

居場所

草津市

笑顔が笑顔を生む、愉快的「ゆかい家」

■活動内容

草津学区社会福祉協議会では「支える喜び、支えられる幸せ、笑顔咲き誇れ！」をスローガンに、ひとりでも多くの方々に「楽しい」を届けられる活動を進めています。立ち寄りカフェ「ゆかい家」は、地域の縁側として、誰でもが立ち寄って笑顔になれる居場所です。

【実施日】毎週火曜日～日曜日

- ・ワンコイン(500円)ランチ
- ・歌声カフェ ・囲碁カフェ ・脳活カフェ ・カラオケカフェ
- ・健康バンド ・グラウンドゴルフ
- ・・・など、介護予防の観点から様々な活動を実施しています。



■団体名 草津学区地域支え合い活動拠点 立ち寄りカフェ「ゆかい家」

■参加者 誰でも（学区外の方も）

■活動拠点
連絡先 草津市草津3-13-70
TEL：080-4648-2948



■活動のきっかけ・実現までの経緯

とじこもりがちな高齢者の方々が気楽に出かけられる場所が必要だと思い、仲間づくりや地域参加のきっかけになればと考えました。

カフェは平成24年3月に開所。当初はコーヒー等の飲物だけの提供でしたが、半年後からワンコイン(500円)ランチを始めました。

今年で7周年を迎え、感謝祭を行う予定です。喜んでくださる方がいる限り、継続していかなければと思っています。



利用者さんの声

- ・ワンコインランチは好評（1日25～30食を提供）
- ・ここに来たら誰かに出会えて、楽しいおしゃべりができてうれしい。
- ・障がいのある方からは、「ここは安心して来られる場所」との声を聞いています。

活動者の声

ボランティアは15名。みんな仲良く楽しみながら活動しています。ボランティアにとっても大切な居場所になっています。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

毎月「ゆかい家NEWS」を発行し、学区内の町内回覧をお願いしています。様々なイベントを開催していますが、各々、参加者主体で運営がなされています。ゆかい家のボランティアはその補助を行い、お互いが必要とされているという意識を持つことができています。

「笑顔は笑顔を生む」 笑顔を忘れず、これからも愉快的「ゆかい家」であり続けたいと思っています。

居場所

甲賀市

健康を味方に、これからを存分に満喫

■活動内容

介護を必要としない健康なシニア、シルバーのためのデイサービスサロン。
皆さんでスペースを共有し、長時間滞在OKのカフェのようなものです。
健康を味方にして、編みもの、手芸、絵手紙、オカリナなど好きなことを皆で教え
合い、得意なもので展示会などをして、社会との交流をしています。
いつまでも元気でいることは医療費の削減につながると考えています。



■団体名

すこやかKサロン
代表者 中島ちか子

■参加者

登録者150名

■活動拠点 連絡先

甲賀市甲南町深川2901
TEL：080-2525-2030



■活動のきっかけ・実現までの経緯

現在5年目に入り登録者は150名、シルバーが、健康で元気に老後を過ごすため
には何が必要かを協議し、病気にならないためのサロンをはじめました。
出来る限り日々活用できるようにするため、月数回というものではなく、いつも利用
できるようにしました。



利用者さんの声

一応日程はありますが、中島さんがおられる時はいつでも迎え入れていただき、おしゃべりができるので嬉しいです。困った時のかけこみ寺になっています。

活動者の声

50歳後半の方から85歳の方、病院で入院後、心のリハビリに来られる方も、何もすることがない意欲のない方も、ちょっとした出会いで元気になっていかれます。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

歳を重ねると教育 ==> 今日行くところがある。
教養 ==> 今日する用がある。社会との交流がある。とても大事なこと。

利用者の方には1回300円(お茶・デザート等)を払ってもらっています。
コミュニケーションは難しいけれど、人の噂はしないなど、人が集まってくる楽しい雰囲気をつくる事が大事。
また、教室ではなく、先生の冠なしで、人それぞれ教えあっています。

イモ発電につながるサツマイモの空中栽培

■活動内容

- 活動日・日時(2018年の場合)
 サツマイモ植え付け 5月27日
 水やり 5月28日～6月2日
 収穫 11月3日
 スイーツづくりと販売 11月24日

- 活動場所 湖南省柑子袋地先
 ○活動メンバー 10代～80代の男女 20名
 ○活動目的 イモ発電につながるサツマイモの空中栽培を行うことによる地球温暖化防止
 ○活動内容 サツマイモの空中栽培
 植え付け 150袋 16名



■団体名 もえポテト 代表者 荒川 萌希

■参加者 20名

■活動拠点
連絡先 湖南省柑子袋西
 TEL：0748-72-8426
 FAX：0748-72-2986

■活動のきっかけ・実現までの経緯

萌希(もえ)さんを中心とした10代～80代の男女20名で構成。メンバーは主に柑子袋区内の住民さんですが、区外の有志も参加しています。この活動のはじまりは、もえさんと、あるお年寄りとの出会いです。中学の時のいじめが原因で引きこもったもえさんのことで悩んでおられたお父さんが、区内に住む立入議員に相談にいかれました。一方で、ご主人を亡くされ、畑仕事を一人でやっておられたお年寄りが、水害に遭われ、気力を失われていました。そのお年寄りともえさんが、立入議員の仲立ちで出会い、二人の畑仕事が始まりました。

その後、立入議員が空中栽培の取り組みを知り、さらに仲間を募って、もえさんと一緒に取り組むようになりました。最初は挨拶もできなかったもえさんでしたが、徐々に畑仕事を楽しくなり、外にも出られるようになっていきました。お年寄りは畑仕事を手伝ってもらえることで助かり、また、私がこの子をなんとかしてやらないという使命感が生まれ、元気を取り戻されました。

その後、畑のお手伝いもやりながら、もえさんが中心になってイモ発電に賛同することになり、今は栽培して収穫したイモでスイーツを考案し、イベントなどで販売しています。ここまで3～4年かかりましたが、今では外の採卵の仕事にも行けるようになりました。

利用者さんの声

・みちくさコンパスや、地域や湖南省市でのイベントなどでもスイーツを販売し、好評を得ている。

活動者の声

・もえさんを中心に、イモの栽培と収穫、スイーツ作り、販売を行っている。メンバーは、さらに仲間を拡げ、サツマイモの栽培を拡げたいと意気込んでいる。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

もえさんが初めて野菜を収穫した時の顔が忘れられない！
 湖南省市内の引きこもりの方が、もえさんのように、地域の人たちと一緒に農業に取り組み、自分の居場所をみつけ、地域のためになることをやることで、自信になればよいと思う。

イモ発電・空中栽培を推奨する湖南省や「こなんイモ・夢づくり協議会」からも、農業・環境・エネルギー・福祉・就労・支え合いのまちづくりのモデルケースと高く評価されている。

居場所

湖南省



誰もが気楽に寄って、しゃべれる場所

■活動内容

- 活動日・日時 毎週火曜日・金曜日13:30-16:00
(盆正月・ゴールデンウィークは休み)
- 活動場所 つどいの館やしま(旧JA柑子袋支所)
- 活動メンバー ボランティア23名(女性のみ)
- 活動目的 高齢者のボケ防止 世代間交流
- 活動内容 居場所の提供 飲み物の提供
子どもとのふれあい イベント出店

■団体名	ひだまり 代表者 奥村 みつ子
■参加者	地域住民
■活動拠点 連絡先	つどいの館やしま(湖南省柑子袋 旧JA支所)



■活動のきっかけ・実現までの経緯

区の自治会で高齢者のボケ防止が話題となり、一人暮らしの方だけでなく、誰もが気軽に寄って、お茶を飲みながらしゃべれる場所が必要ということになり、ちょうど廃止されたJA支所の有効活用も検討されていたので、お借りして活動を始めようということになりました。

活動を始めるにあたり、区の広報や口コミで23名の方が参加してください、その方たちにアンケートを行ないました。活動前には北山台のひまわり館へも見学に行きました。活動は週2回で火、金13:30~16:00まで。厨房の制約もあり、コーヒーなどの飲み物と、袋入りの菓子のみになりました。館の改修については県と区の補助金を使わせていただきました。必要な備品や調度品はほとんど区民やスタッフの寄付やもちよりでまかない、その他一部はリサイクルショップで調達しました。



利用者さんの声

団地の住民さんもお茶をのみに来られています。スタッフへの誘いもされていますが、そのうち実現すると思います。暑い時も雨の時も肩ひじ張らずに遊べるし、飲み物も100円で種類も多く、選んで飲めるのがいいです。(利用もほとんど60代~80代)

活動者の声

23名のスタッフのうち、毎回2名が当番として活動しています。活動自体がボケ防止で、楽しみながらやっていますが、2名の組み合わせには苦心しました。1周年にはスタッフと参加者の皆さんにも「ご苦労さん」と、ちょっとしたプレゼントを用意しました。

館の賃料は区で負担してもらっています。男性の方は少ないですが、機会をとらえて来てくださいます。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

いつもの「ふれあいサロン ちよっといっぷく」だけでなく、先日のみちくさコンパスでは「いもつぶし」や「鬼饅頭」も販売しました！

春休みや夏休みには孫たちも一緒に来て賑やかでっせ！今後もあまり無理なく、このままの中身で続けて行きたいです！

居場所

湖南省

自治会館を誰もが使える空間に

■活動内容

- 活動日・日時 月・水・金・土・日の週5日 10時～16時
年末年始、春の連休、お盆は休み
- 活動場所 北山台第2自治会館
- 活動メンバー 女性10名 男性6名
- 活動目的 世代間交流 居場所 健康づくり
- 活動内容 居場所の提供(高齢者・子育てサロン・子どもの宿題)
喫茶・軽食(飲み物・うどんの提供)
健康づくり(介護予防 サークル活動)
世代間の交流(高齢者と子どものふれあい・歌声喫茶)

飲み物はコーヒーほか1杯100円、かけうどん150円。
毎週土曜日は「かけうどん100円の日」としています。
奇数月の第2水曜日には、500円のひまわりランチも提供しています。



■団体名	北山台第二自治会館 「ひまわり」
■参加者	自治会員 (活動メンバー：女性10名・男性6名)
■活動拠点 連絡先	北山台第二自治会館 湖南省北山台2丁目343-3 代表者 黒川 澄江 TEL：0748-60-5046

■活動のきっかけ・実現までの経緯

8年前の2010年に「北山台を考える会」(有志)でこれからの北山台自治会運営について1年間かけて討議を重ねた提言の中で、役員や同好会の限られた人しか使わない「自治会館」ではなく、子ども達から高齢者まで誰もが気軽に集える空間づくりが必要、との強い要望がありました。ちょうど、ポポラートの街づくりで「集会用地」の提供があり、「第二自治会館」の建設に至り、第二自治会館の新築に合わせて2013年にスタートしました。

スタッフは無償ボランティアで、北山台サポート隊の一つに位置付けられており、60～80歳代の男女15名がスタッフとして活動しています。当初は週4日、女性スタッフ10名で運営していましたが、2015年に男性スタッフ(現在6名)が加わり、日曜開館の週5日体制を築きました。子育てサロンや趣味の会で赤ちゃんから高齢者まで幅広い年齢層に利用してもらっています。



利用者さんの声

身近な所にここがあってよかった、食べれるし、しゃべれるし、助かるわとの声を多く聴いています。

活動者の声

年に2回のバザー収入が大きい。自治会からの補助金は年5万円いただいている。
部活帰りの女生徒が立ち寄り、子連れの子や区域外の高齢者の来館があったりして、地域の日常にしっかりと根付いた活動になってきた。
今後は後継者の課題もあるが、求める人がある限り続けていきたい！5年間続けられたのは、ボランティアスタッフの頑張りかな。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

館の利用の殆どが喫茶・軽食で、その内高齢女性の利用が7割を占めています。認知症を抱える方の利用もあり、長時間おしゃべりしていかれる人もいます。認知症の方の検索訓練だけでなく、実際の検索の拠点ともなり、発見された方が温かいうどんをおいしいおいしいと食べられたこともありました。

工事の人や通りがかりの人でもOKという柔軟な姿勢、館の利用を自治会内の人に限らないのが特徴です。館の運営にあまり制約はありませんが、毎月1回の「スタッフ会議」や2ヶ月に1回の自治会との運営委員会を開き、意見要望等の調整を行っています。後継者の育成は大きな課題。専業主婦の我々の世代は無償で、自分達も楽しめればよしとしましたが、今の若い人は無償？という感じですね。

居場所・配食
買い物支援
子ども食堂

高島市

自治会域を超え、皆が寄れる場がある

■活動内容

- 居場所(お休み処 まちあかり)
日時 第1～第4火曜日 10:00～12:00
ただし、第3火曜日のみ 10:00～13:00 昼食あり
参加費100円 昼食代300円・対象 高島地域全域
※第1火曜終了後12:00～13:00 わたしょうへの買物、食事、送迎つき
※第3火曜日は市民病院リハビリテーション科より体操指導
- 配食(配食まちあかり)
第1、第3水曜日 約50人の対象者に昼食として弁当を届ける。1食300円
目的は、見守り、生活支援も兼ねる。
- 子ども食堂(まちあかり、子ども食堂)
第3土曜日 11:30～13:30



■団体名	まちあかり
■参加者	高島地域住民
■活動拠点 連絡先	高島住民福祉ネットワーク 代表者 村田良雄 TEL: 0740-36-8220 (事務局高島市社協)



■活動のきっかけ・実現までの経緯

平成21年度に住民有志(個人、団体)による、テーマ型出入り自由でオープンな組織を立ち上げ、初めは配食(見守りが目的)で訪問型の活動をしていましたが、平成29年度に空家を借用できたことをきっかけに、「常設型の皆が寄れる場をつくりたい」というメンバーの思いから「お休み処 まちあかり」を開設しました。自治会域を超えて誰もが集まれる居場所として活動をしています。

平成30年度からは、子どもにも集まってもらえる場として、「まちあかり 子ども食堂」を開設しています。

また、同年10月からは、わたしょう(商店)が送迎をし、自分のお店での買い物支援をしてくださっています。



利用者さんの声

自治会のサロンは回数が少ないけど、ここは毎週開設しているので、出かけることができました。ポケ防止のために毎回楽しく参加しています。病院からリハビリの先生が来てくれるのも助かります。

介護支援が外れショックでした。ケアマネさんの勧めで、バスで25分かけて来ています。いつも5分遅れの参加になりますが、皆さんが待っていてくれるのでうれしいです。いろいろな地区の人に出会えて楽しいです。

活動者の声

配食の仲間と、大分県へ視察に行ったのがきっかけで、ここでボランティアをしています。肩を張らず、ゆったりとした気持ちで活動できることが一番です。

始める時に、空家を皆の手で改修したり必要なものを持ち寄ったことで愛着があります。自分のためにも活動をさせてもらっています。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

活動母体である、住民福祉協議会を組織化し、役割分担をすることで、ボランティアさんの負担を軽減しています。また無理をせず、まず自分達もいっしょに楽しむことを大切にしています。各活動にリーダーを決め、リーダーを中心に話し合いを進めながら、実施しています。いろいろな組織やグループと連携することで、様々なお力添えを頂いています。また、助成金を活用しています。

居場所

高島市



区民みんなで見守れる地域に

■活動内容

浜分区での取り組み(浜分区集会所)

サロン	第4週目の適当な日(他の事業と重複しない日)
ヤナちゃんカフェ	第2土曜日 13:30~15:30
楽しいお昼ご飯	第2水曜日 11:30~15:00
高島あしたの体操	第1・3水曜日 13:30~15:00

ヤナちゃん農園	
男の料理教室	年間6回
花いっぱい運動	年間3回

■団体名	ふれあいクラブ浜分
■参加者	区民、スタッフ10名
■活動拠点 連絡先	浜分会館(高島市今津町浜分区) ふれあいクラブ浜分 代表者 古川 富子 TEL:090-2596-2107

■活動のきっかけ・実現までの経緯

代表者の母が、特別養護老人ホームへ入所した際に、「今日は家に帰りたい」と頻りに言う母の姿を見て、住み慣れた地域に母のような人が集える居場所が必要だと思ったのがきっかけ。自分の集落には居場所がなく、区に働きかけたが、「区ではできないが支援ならできる」とのことでしたので、区の支援を受けてその当時の介護仲間3人でサロンを始めました。

2020年に10年目を迎え、現在スタッフは男女合わせ10名になりました。2017年度集会所も新築され、床暖房や、IHとガスコンロ両方がある厨房等設備も整い、活動もカフェ、お楽しみご飯、体操などと広がってきました。年間6回男の料理教室もあり、男女ともに、なじみの場で、なじみの人達と楽しく交流をしています。



利用者さんの声

<本人>
笑顔になれる場です。自分のしたいことができるし、日頃のストレス解消になります。いつも楽しく参加させてもらっています。

<家族>
認知症の方も一緒に参加されてみんなの中で過ごす、その日は寝るまで、おだやかに過ごしています。家に帰ってからの介護が楽です。感謝しています。

活動者の声

周りの人や認知症の人のことがわかるようになりました。自分たちの何年後かの姿だと思います。

「みんなで活動していると一日でも元気で暮らしていけるかな。」
「自分が元気で生きていくためでもあるね。」
こんな気持ちで活動をしています。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

浜分区の取り組みは、区民の健康寿命の増進、コミュニケーションの広がり、見守り活動の展開など様々な活動に繋がっていて、災害時にも役立つものとなっています。運営費は浜分区や社協の助成金を活用しています。

仲間づくりが広がると誰もが顔みしりになれることが大事。

10年が経過してスタッフも同じように年を重ねていますが、自分自身のために、また仲間と楽しく活動が出来ることになよりの継続の力になっています。

居場所
子育て

高島市

いつでも、だれでも、囲炉裏で【寄里藍】

■活動内容

子育てに迷ったり、悩んだりしていない？ 最近ストレス感じていない？ そんな時、心がホットするところ、やさしい気持ちになれるところ、本当の自分に出会えるところ～【寄里藍】はそんな時間を過ごせる場所です。

自然あふれるマキノ国境で築240年のかやぶき屋根で、囲炉裏の火のぬくもりを感じながら昔の食べ物を頂きなんでも語りあっています。

【寄里藍日】

毎月第1月曜日 子どもサロン(カンガルークラブ)

毎月第3月曜日 おしゃべりサロン

(こころのサロン/ケセラ・ケラクラブ)

時間 10:00～15:00

寄里藍料 100円



■団体名

寄里藍

■参加者

希望者

■活動拠点 連絡先

高島市マキノ町国境(願力寺)

代表 新田龍誠・新田晃子

TEL・FAX: 0740-28-0668



■活動のきっかけ・実現までの経緯

20年以上になりますが、今津から国境のお寺にUターンしました。音楽好きの仲間達とコンサート、語りの会、作品展など開催する中自然と多くの人達との出会い、集いの場となっていきました。

また、30年以上前から里親として多くの子供達をお預りしてきましたが、年齢的にお預りする事が困難になり高島市里親会の人達と親子サロン、また精神疾患の方達に集って頂けるサロンを開き、食事をして頂き、リフレッシュして頂いています。



利用者さんの声

いつもお世話になっています。あたたかい心に接して病気も治ると思っています。食事も美味しく、あんなに美味しい卵丼は初めて食べました。第一月曜日がすごく楽しみです。(病気治療中の親子さん)

ここで出会った方とお話するのが楽しみで、ゆるやかに過ごせることが良くて、居心地がいいです。田舎のおばあちゃんの家にいるみたいです。(子育て中のお母さん達)

活動者の声

昼食を一緒に食べることにより、親睦がより深まっています。人数の多いときはボランティアさんにもお手伝い頂き、お寺に頂くお米、野菜、お菓子などの食材で調理し、食べて頂いています。(最初は無料、今は100円)

家の周りには、いろんな生き物がいっぱいいます。おもちゃ、絵本もいっぱいありますよ。いつでも、だれでも囲炉裏でリフレッシュしてみませんか。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

お昼を挟んでいる(奥さんの手作りや仲間の方からの差入れ)ことが、皆さんゆっくりできるのだと思います。また、利用者の方から教えてもらう事も多く、皆さんには、手出し、口出しはしないように心がけ、ゆっくりした時間を楽しんで頂いています。

居場所

高島市

いろいろな人や物、資源が「くっつき」ますように

■活動内容

朽木住民福祉協議会が誰もが利用できる地域の居場所として運営しています。朽木住民福祉協議会では、「安心して、いつまでも、朽木の郷で暮らせますように」という思いで住民福祉活動計画を立てて、取り組んでいます。

毎週金曜日開催

第1・3・5 10:00～12:00 おやつの日（参加費100円）

第2・4 10:00～15:00 ランチの日（参加費500円）

体操をしたり、歌を歌ったり、ゲームをしながら楽しんでいます。保健師さんによる健康指導など専門職との連携のほか、元体育の先生や元調理師の方など、地元の住民の方にも活躍をしてもらっています。生協と協力して、生協のステーション機能も備えています。



■団体名

寄り合い処「くっつき」

■参加者

地域住民

■活動拠点 連絡先

高島市朽木市場324
代表 海老澤 文代
TEL：0740-36-8220



■活動のきっかけ・実現までの経緯

「寄り合い処くっつき」は、空家を活用した住民福祉活動拠点として運営しています。それまで利用していた施設が使えなくなったことをきっかけに、拠点として活用できそうな空家を探し、現在の場所に開設することになりました。

中央共同募金会「赤い羽根福祉基金」の助成を受け、空家の改修などを行い、平成29年3月に「寄り合い処くっつき」という名前でオープンしました。

居場所の名前には「いろいろな人やモノ、資源がくっつきますように」という思いが込められています。



利用者さんの声

毎週楽しみにしています。ここができたおかげで、行くところがありました。

活動者の声

「ここに来てくれる人のため」と活動を始めたが、活動をしていくうちに自分のためになっていると実感してきています。

地域のいろいろな技を持っている人に関わってもらい、皆でこの場を作っていくことが大事だと思っています。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

メンバーみんなが活動を自分ごととして活動をしています。

「くっつき」でいろいろな人やモノがくっつき、居場所や生活支援等の取り組みが広がればよいと思っています。たくさんの人に活動を知っていただけるよう、毎月「あいの郷通信」を発行し、活動の紹介やお知らせをしています。

居場所
生活支援

高島市

生きがい・助け合い・自立・奉仕がモットー

■活動内容

当グループは、1994年大阪に設立され本年4月に25周年を迎える。会員数約2万人からなるNPO法人で全国組織です。活動拠点数は海外を含め120を数えます。びわこ高島はその一つであり、現会員数は42名の小所帯です。ナルク本部・拠点とも財源は年会費3,000円と寄付金(会員の活動等によるものが大半)を基にしています。

活動内容としては、楽しいナルク実現に向けて「行けば何か楽しみが待っている」を目指し、高齢者の居場所づくりに力を入れています。

2か月に1回の昼食会、毎年秋のバス旅行が好評です。会員一人一人の生活に合わせ、安否確認・傾聴・清掃・整理整頓・掃除・草取り・買い物支援等を実施しています。



■団体名 ナルクびわこ高島 代表者 時本宜昭

■参加者 会員42名

■活動拠点
連絡先 高島市今津町名小路1-1-2
TEL: 090-7750-8952
mail: tokky2600@yahoo.co.jp

■活動のきっかけ・実現までの経緯

ナルクびわこ高島は、2019年4月から発足10年目に向けて活動に入ります。入会のきっかけは、ロコミおよび紹介によるところが大きいです。善良な組織なので広報し、頼れるナルクを目指しています。会員の教育・教養で活動を高め、確固たる活動組織になることを願っています。



利用者さんの声

病院送迎・買い物を中心に、いろいろな懇親会に出席させていただいています。

楽しい時間を過ごさせていただき感謝しています。

活動者の声

実際に活動しているものが限られているので、特定の活動者にそのしわ寄せがいつているのが現状です。この解決策の一つには、やはり人生で取得したノウハウを持ち合わせる高齢者同士が助け合うことが必要であり、また高齢者が社会奉仕活動の担い手になっていかなければ、高齢化社会の進展に立ち向かうことが出来ません。いろいろな活動には人の助けが必要です。

そのためには老若問わない会員の増強であり、それが最大の力となります。100名を超える会員になることを期待し、その力でいろいろな施策がうまく展開することを願っています。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

自動車免許がない人や要介護者支援から外された方など移動手段等に困っておられる方のお手伝いをナルクの取り決めに従い、やらせていただいております。

全国組織の理念を理解いただき、また会員で共有し、確認することを大切に考えています。

居場所

東近江市

中野ヴィレッジハウス・世代を越えて繋がる場

■活動内容

中野ヴィレッジハウスは、御代参街道の中野地区に残る塩蔵を改修して地域の人が自由に交流できる場を目指しています。

日～火と金～土はコミュニティカフェを開き、木曜日は中野地区のボランティアセンターが設置されています。また、ゴールデンウィーク、夏休み、ハロウィン、クリスマスやお正月には特徴のあるイベントを運営委員会が企画して、カフェのスタッフや地域の人たちと一緒に実施しています。

運営委員、カフェスタッフ、ボラセンのスタッフや地域の有志が力を合わせて、地域の見守りにも力を入れています。



■団体名	一般社団法人中野ヴィレッジハウス 代表者 西川 勉
■参加者	地域内外の住民誰でも
■活動拠点 連絡先	東近江市東中野5-21 TEL：0748-56-1371 mail：nakanovh@gmail.com

■活動のきっかけ・実現までの経緯

塩蔵に使われていた倉庫の再利用を考えていた時、近江市「空き家等×α」の可能性を生み出すモデル事業を活用し、自由でインフォーマルな地域の活動拠点が実現できないかと地域の人たちや地域づくりに関心を持つ人たちが集まり、様々な可能性について議論をしてきました。

上記の事業の採択が決まり、一般社団法人を設立し中野地区まちづくり協議会や中野総区自治会の協力と理解のもと、コミュニティカフェの運営も、この地域で活動する子育て支援の地球ハートヴィレッジが担当することでオープンすることとなりました。持続可能な運営のため市社協や地区社協、各種団体の協力のもと歩み始めています。



利用者さんの声 <カフェ/ボラセン>

*地域で気軽にお茶を飲んだり食事をしたりフラットと立ち寄りたりする場所が増えて嬉しい。ここではイタリアなどこの地区ではあまり馴染みのなかった料理が味わえることも魅力の一つです。

*気軽に立ち寄る場所が出来ました。夏休みには子どもたちの活動があったり、野菜のおすそ分け市などもあります。沢山の人たちとお話出来るのが魅力です。

活動者の声 <運営委員/カフェ>

*楽しい企画を考えて多くの人たちに来ていただきたいと思っています。今年のハロウィンでは近所の人たちにも協力していただき、子どもたちがそのお家を訪ねて「トリックオアトリート！」の声でお菓子を渡す役割も担っていただきました。

*毎日のメニュー作りは大変ですが、美味しいと言ってくれていただけると嬉しいです。一緒に企画したイベントが盛り上がると達成感があります。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

オープンするまで2年間ほどこの地域で、この場所で出来ることを皆で沢山考えてきました。そして、オープンして間もなく2年が過ぎようとしています。この間、多くの協力者を得て考えてきたことが次々と実現してきました。地域の方々の底力を見せていただいた思いです。多くの人が来ていただき、多くの意見や提案をしていただけるのですが、出来るだけ具体的に実現するように取り組んでいます。いっぱいいっぱいになっていないか？などと心配して声をかけて下さる方もおられるのですが、急がず出来ることから出来るだけ、というペースは守っているつもりです。スタッフが疲弊しないで行っているのは、ここでの活動が楽しいからだと考えています。スタッフが楽しくなければ参加していただく方々が楽しいはずがないと思います。

地域には隠れたお宝がいっぱいいます。これらを発見していく喜びこそがエネルギーになっています。特に子どもたちが輝ける場を、子どもたちと一緒に作っていければ最高だと思っています。

■活動内容

平成30年11月現在、市内33団体が定期的な居場所づくりや介護予防活動、地域支え合い活動に取り組んでいます。

■団体名	米原市33団体
■参加者	市民
■活動拠点	米原市長岡1206 米原市健康福祉部くらし支援課 TEL：0749-55-8110 FAX：0749-55-8130 mail：fukushi@city.Maibara.lg.jp

■活動のきっかけ・実現までの経緯

地域の中のコミュニケーションが減ってきたり、自治会役員や民生委員への負担が大きくなってきたり、ひとり暮らし高齢者などが日常生活に不安を抱えていたりという課題がある。一方、意欲と能力のある元気な高齢者も多く、地域で支える側として活躍できる場所がつかれないかと考えました。

身近な地域で気軽に集まることができる居場所をつくり、元気な高齢者がいきいきと活躍し、地域の支え合いによる活動を通して、地域のコミュニティの構築と活性化を図ることを目的に平成25年度から開始しています。

利用者さんの声

昼間は家で1人きりで、テレビの守をしているだけだが、出かける場所ができて、ここに来るとみなさんと一緒に過ごすことができます。

家族はいるけれども居場所に来ると、私と会話をしてくれる人がいます。

ちょっとした困りごとを相談できることができました。自分たちも活躍できる場所ができました。

活動者の声

- ・居場所が住民と市や自治会とのパイプ機能を担っています。
- ・地域の中の困りごとを把握できるようになりました。

- ・体操＋カフェで、体操を目的に来る人がカフェを利用してくれます。
- ・大きな声を出す機会が少ない高齢者が歌を歌うと喜んでくれます。
- ・認知症の学習を機会に、家族や地域の対応が変わってきました。
- ・移動販売により、参加者が増えました。
- ・高齢者が栽培した余剰野菜を出品し、生きがいになっています。
- ・カフェの利用料やイベント等での出店、寄付金等も含め自己資金を得る工夫をしています。
- ・利用者の「安心感」や「期待感」が感じ取れるようになってきました。

- ・将来こんな地域になってほしいという思いを込めて、自分たちが楽しんでいます。若い人にそういう姿を見てもらえると良いし、自分のためにもなります。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

できることから、できる範囲で、無理をしないことが大切です。

毎月の定例会を行っている団体が多く、スタッフの仲間意識を醸成したり、活動の軌道修正を行ったりすることが、活動を継続するコツです。

居場所・配食
外出支援
子ども食堂

米原市

進化を重ねる「まちづくり会社」

■活動内容

- ・たまり場食堂・・・ 毎週土曜日昼食300円 コーヒー100円
- ・お買い物コーナー・・・ 近くの八百屋さんがたまり場へ出張してきます
- ・配食・・・ 毎週木曜日 宅配昼弁当 30食 400円
- ・付き添い移送サービス・・・ 利用対象者 独居高齢者・高齢者夫婦・身体障害者
75歳以上で運転免許を自主返納された方
片道30km程度 玄関から玄関までの見守り
料金は、直接費(ガソリン代・駐車料・高速料金)
- ・水曜日にたまり場開放・・・ 参加者はそれぞれに語り、趣味を交換
- ・要支援者の受け皿・・・ 総合事業Bを実施
- ・認知症予防教室・・・ 毎週土曜日 無料 たまり場で
- ・子ども食堂・・・ 土曜日に高齢者と一緒に食事



■団体名	一般社団法人 大野木長寿村まちづくり会
■参加者	社員
■活動拠点 連絡先	米原市大野木1090番地 大野木たまり場「よりどころ」 代表理事 清水清市 TEL：0749-57-0789



■活動のきっかけ・実現までの経緯

大野木地区のまちづくりは平成6年頃から始まり、「区の行財政と生活改善」を主テーマに取り組み、当時の決議事項は現在も引き続き守られています。

現状のまちづくりは、平成21年頃から部分的に始まり、平成22年に「大野木豊年踊り長寿村建設検討委員会」を設置。「30年後の大野木のために今何をすべきか」をテーマに2年間検討した結果「6項目」の課題が答申され、区の総会で決議されました。そのような中、「民生委員児童委員経験者、区長経験者7名」が自主的に集まり、「身の丈にあった内容で、今やるべきこと、出来ること」を検討し、「高齢者支援訪問事業」を中心に、平成23年9月「大野木長寿まちづくり会社」を立ち上げました。

まちづくり会社は年々進化を重ね、「自立・持続するしくみの構築」によって地域に浸透し、「信頼と期待度がたかまりつつあるなかでインクルーシブなコミュニティモデルを構築し、広く地域社会に貢献」していきたいと考えています。



利用者さんの声

○移送サービス
有難いことをはじめていただき本当にたすかります

活動者の声

人口減、若者の大都市流出と将来が不安視されています。超高齢化社会は「なるようになる」の考えは捨てなければいけません。まちづくり会社は、団結、行動力、実績の積み上げで、これからが正念場です。集落を守るのは、元気な高齢者しかいません。いい汗を流すのは最大の健康法です。長い老後を楽しく元気に過ごしましょう。一緒に活動して頂けませんか。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

大野木の高齢者は宝であり、大野木の風土は永遠の資源として、丸ごと保存につとめ、大野木人の、大野木人による、大野木人のために、知恵と力を結集して区行政等に制約されない柔軟かつ持続する形は、長年のまちづくり活動から根付いたもので、先人が築いた風土が原点となっています。

平成29年9月に法人格を所得しました。これまでの流れと次代に向けた循環するしくみの構築に懸命なる努力を続けており、これらの成果は大野木地区における最大の財産であります。

居場所・配食
生活支援

米原市



お茶の間でサロンを活性化「世継サロン」

■活動内容

- 1 コミュニティカフェ(居場所)の開設
 - ・自治会館での居場所の開催 (毎週火・木曜日、10:00～12:00、13:30～15:30)
 - ・コーヒー等 100円/杯 ・毎月最終木曜日に食事会の開催
 - ・買物代行、移動販売等の生活支援(日常生活支援1回100円)
 - ・ご近所元気隊教室の開催(隊員、医療・福祉の国家資格取得者のまいばら体操、棒体操、タオル体操の実施)
- 2 見守り訪問及び介助(1人暮らし高齢者、高齢者世帯) 1回1時間以内200円
 - ・毎月最終木曜日に会員による、配食サービスと安否確認(食事提供100円)
- 3 地域訪問型サービス ・利用料金 1回200円
 - ・対象者は要支援1・2 及び基本チェックリスト該当者(1回につき1時間以内)
 - ・高齢者のみの支援の必要な世帯に対し、必要な生活支援(掃除、洗濯、調理、買物、配食等)や移動支援を行う。

■団体名	世継サロン
■参加者	地域住民
■活動拠点 連絡先	米原市世継572-5 (世継会館) 代表者：北村 幸子 TEL：0749-52-1583



■活動のきっかけ・実現までの経緯

世継サロンは団体名のとおり、もともとサロンを行う団体でしたが、お茶の間活動を行う前はしばらく休止状態となっていました。H26年度米原市お茶の間創造事業モデル団体として登録され、活動は5年目を迎えますが、お茶の間事業からサロンは復活し、大切な交流の場所となっています。

活動としては自治会館を居場所として開放する他、毎月最終木曜日に会員による配食サービスと安否確認や、高齢者世帯を対象とした生活支援サービスを提供しています。



利用者さんの声

- ・居場所の開設は本当にありがたく、毎週楽しみにしています。週3回ぐらい実施してほしいと言われてます。
- ・夫婦で利用されている方もあり、家庭の中に活気が出てきたと言われてます。
- ・要介護者の方を中心に血圧、体温の測定を実施し家庭では出来ないのが重宝がられています。

活動者の声

高齢者が今まで家に閉じこもりがちだったが、お茶の間事業のお茶会の場所ができたことにより、触れ合いを求めて外へ出ることができるようになりました。また、お茶の間が区民のコミュニケーションを図り、区民相互間の安否確認の場所になっています。特に介護予防事業には力を入れています。体操以外にも市の出前講座の開催、玉取ゲーム、塗り絵、折り紙等を実施しています。また、年間2回日帰り研修にはボランティアや利用者も参加して意見交換をしながら一時を過ごします。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

運営にあたっては、市のお茶の間創造事業補助金を活用するとともに、カフェ等の利用料を活用しています。移動販売等を取り入れながら日々の生活支援をしています。まだまだ十分とは言えないのが現実です。将来を見据えた安心安全なまいちゃん号を使った、定時買い物ツアーができないか検討しています。ボランティアさんの補充が難しい時代となってきましたので、元気な高齢者が在宅する家庭を中心に勧誘を進めています。

居場所
生活支援

米原市

地域の福祉活動の拠点に「野一色みまもりたい」

■活動内容

- ・お茶の間カフェ(居場所)の開設・・・誰もが出かけてきて好きな事の出来る場の提供。昼間見守りの必要とする高齢者の見守り。毎週月・水・金曜日13時～16時。イベント、お出かけの開催。利用料:100円
- ・手助けボランティア・・・日常生活の中で手助けのいる支援。地域の中で安心して生活の出来る見守りの支援。
- ・福祉講演会の開催・・・年2回。区民対象の講演会を開催(認知症、介護保険等)(地域全体の福祉の向上をめざす)
- ・区民の介護予防活動・・・出前講座の開催。認知症予防・体操・体力測定・血圧の管理等を実施し、各人の健康意識の向上をめざす。



■団体名	野一色みまもりたい
■参加者	地域住民
■活動拠点 連絡先	米原市野一色483(野一色会館) 代表者:西堀 正次 TEL:0749-55-1324

■活動のきっかけ・実現までの経緯

野一色みまもりたいは、H25年度米原市お茶の間創造事業モデル団体として登録され、活動は6年目を迎えます。誰もが出かけてきて好きなことのできる場の提供として、昼間見守りを必要とする高齢者の見守りを積極的に行っています。

医療・福祉等の資格を持つスタッフを中心として、高齢者の血圧測定を行い体調を管理したり、ラジオ体操等を行い健康の維持に努めています。又、様々な特技を持ったスタッフは、その技術を生かし生活の支援を行っています。

また、地域全体の福祉向上を目指すため、区民を対象とした認知症や介護保険等に関する講演会を開催しています。

利用者さんの声

- ・地域の中に居場所があると安心です。本当にありがたい。
- ・畑もしているが、この時間は空けている。
- ・家で一人であるより、居場所でみんなとおしゃべりするのが楽しい。コーヒー・紅茶も美味しい。
- ・茶摘み、七夕、夏祭り、桜狩り、紅葉狩り等のお出かけ、草餅、牡丹餅、お雑煮等々、季節に応じたイベントは、季節を肌で感じ、皆で行けるのが楽しみです。
- ・困ったことがあれば、気楽に相談でき、助けてもらえて助かってます。

活動者の声

- ☆体操、血圧測定等を実施することにより、利用者さんが自分の体調を確認され、体力維持ができ健康寿命も延びています。
- ☆カフェに来られている方々がとても活発になられ、外出することへの抵抗感がなくなってきています。
- ☆地域の中でお茶の間活動についての好感度が高まり、協力を得られるようになってきています。
- ☆認知症等の学習をすることにより、利用者さん同志のお互いの「思いやり」も増し、優しい居場所になっています。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

運営にあたっては、市のお茶の間創造事業補助金を活用するとともに、カフェ等の利用料を活用しています。区民の皆さんとスタッフと一緒に地域のつながりを今後も深めていきたいです。困ったとき、何かあったとき、「気軽にたのめる」存在としてありたいと考えています。この活動が長く続くために、自分たちのカラー、地域のカラーを大事にしなが、できる範囲のことを行っていきます。

居場所

米原市

最先端の取り組みも「河内区福祉委員会」

■活動内容

- ・コミュニティカフェ「ごんせ」の運営
毎週水・土曜日10時～15時 利用料:100円
- ・サロンの企画運営
月に1回「健康教室」「歴史講座」「お出かけサロン」など。
- ・地域の独居高齢者および高齢者世帯の見守り活動
- ・文化祭の企画運営と手芸・花・伝統食研修など
- ・米原市との協働事業で「ITを使ったみんなで支えるコミュニティづくり」を推進
- ・ご近所元気にし隊員による体操教室



■団体名

河内区福祉委員会

■参加者

構成員10名、ボランティアスタッフ28名

■活動拠点 連絡先

米原市梓河内423番地（河内会館）
代表者：宮部 道雄
TEL：0749-57-0728



■活動のきっかけ・実現までの経緯

河内区福祉委員会は、H25年度米原市お茶の間創造事業モデル団体として登録され、活動は6年目を迎えます。河内会館を拠点として利用、区の資金で会館をリノベーションし、新しい会館で積極的に居場所づくりに取り組まれています。お茶の間を始められたことから、住民の健康への関心が高まり、会館を週2回開けていることで村に誰が来たかわかり、防犯にもつながっているなどの効果がありました。

さらに、移動販売車を呼び込み買い物支援を行うことや、健康教室や歴史講座など出前講座等を活用し、区民生活の満足度の向上を図っています。

また、米原市と協働事業として「ITを使ったみんなで支えるコミュニティづくり」を推進し、現在7名の80代高齢独居者を見守っています。



利用者さんの声

今まで会館に集まることはありませんでしたが、お茶の間を始めたことで週2回のカフェに集まり、区の情報共有できるようになりました。

さらに、私たちの意見や要望が区に反映されるようになりました。

活動者の声

笑顔の高齢者と元気な高齢者が増え、高齢者とボランティアの世代を超えたつながり・コミュニケーションが生まれました。毎週2回、カフェに参加するのが楽しみです。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

運営にあたっては、市のお茶の間創造事業補助金を活用するとともに、カフェ等の利用料を活用しています。

今後は「高齢者の健康と利便性・満足度」と「地産地消」「運営側の安定的な資金確保(カフェ運営の継続など)」の三方よしの狙いで、地域ニーズに応える、地域住民みんなで支える「地域福祉のコミュニティ」づくりを目指します。

居場所

いつでも誰かと話せる私のお茶の間「ほっこり」

米原市



■活動内容

居場所 月曜日および年末年始を除く毎日
10:00～16:00

コミュニティカフェ事業 (コーヒー・ぜんざい・きつねうどん・
親子丼・カレーライス・かき氷・カップ麺)

サロン事業
健康づくり事業
生きがいづくり事業 など

■団体名	池下お茶の間「ほっこり」
■参加者	地域住民
■活動拠点 連絡先	米原市池下563 代表 大橋丈夫 TEL: 0749-55-1704



■活動のきっかけ・実現までの経緯

平成26年度米原市のお茶の間創造事業「モデル事業」に採択され、活動が始まり8月で5年になります。「ほっこり」の建物は市から無償でお借りし、建物の改修や備品は手作りで整備をしました。三島池ビジターセンターが解体され、跡地が区民みなさんの協力で整備され、グランドゴルフ、ゲートボール等、体力づくりにも活用されています。

「ほっこり」の担い手として頑張っているのは、池下の女性8名です。現在、隣接する施設の解体工事がされていて、今後は更地の活用で更に活動が広がると思っています。



利用者さんの声

私は池下の住民ではありませんが、買い物途中に時々寄ります。村の話や聞かせてもらっていつも参考になります。気楽で雰囲気が良いので、毎月1～2回は寄っています。観光客の方や、いろんな方が来るので、そんな人と話をするのも楽しいです。
(たまたま空いていて、入って来られたお客様)

活動者の声

地域の方だけだと世間話になるが、観光客が入ると、絵画、写真等コミュニケーションに花が咲きます。

我が家のように使ってほしい。私はお世話のみで、話には入らない、やってくれる人が好きにやってくれたら良いので任せています。

ちょっとしたボランティア活動として、送迎、買い物、タイヤ交換などを補助券で実施。お金のやり取りはしていません。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

楽しみながらボランティアをすること。かっこつけしないで、無理しないでやっていくこと。

運営は、池下お茶の間「ほっこり」創造事業委員会が行っています。運営にあたっては、市のお茶の間創造事業補助金を活用するとともに、カフェ等の利用料を活用しています。独立採算制で光熱水費も自前で算出しており、委託販売や自販機収益もあり、赤字にはならない運営を行っています。

居場所
生活支援

竜王町

りんりんちょボラ（林の隣人）で助け合い

■活動内容

- ・おたっしや教室 毎週水曜日 80歳以上 9:30～11:30
- ・お出かけ支援 おたっしや教室の日に平和堂フレンドマートまで移送
- ・りんりんカラオケ おたっしや教室のない水曜日 公民館
- ・おしゃべりカフェ 月1回公民館でどなたでも 9:30～11:30
- ・ひだまり学舎 学びを通しての交流
 - ひよこクラブ 未就園児5人（H30・6開始）
 - りんりん学童 小学生25人 学校がある日 15:30～17:00
 - りんりんそろばん そろばんの練習、宿題、カロムOK
 - りんりんJCB食堂 じいちゃん・ばあちゃん・こども、皆きてね～
- ふれあいカレンダーを全戸配布（毎月、区の評議員さんが配布）



■団体名	りんりんちょボラ
■参加者	区民
■活動拠点 連絡先	林自治会館、ひだまり学舎

■活動のきっかけ・実現までの経緯

平成29年3月に開催された自治会総会において、女性区民から「子育て支援や高齢者支援」を活動に加えるようにとの意見が出され、承認されました。高齢者の物損事故が多発、また区内の高齢女性が見通しの良い交差点で出会いがしら事故で死亡された現状を踏まえ、町の新規事業「竜王町地域支え合い仕組みづくりモデル事業」に応募し、取り組みがはじまりました。

かねてより地域活動が活発に行われていて、区民運動会と区民文化祭を融合させた「大昼食会」は20年の歳月を重ねています。役場OBを主体とした福祉委員会、社会教育委員会は若者の登竜門として機能しており、「りんりんちょボラ」はそのような人と人がうまくなつながら出来上がり、自治会を通して活動が広がっています。

利用者さんの声

今はどうしても時は車に乗っているけど、5年後には、運転はむりやと思う。その5年後のためにしっかり事業化してもらえるように、利用実績をつくっている。

活動者の声

- ・町から言われてやるのではない。
- ・新規事業の趣旨を踏まえて林の役に立つことを模索してみよう
- ・アンケートや先進地研修、知恵の絞りだし会議の開催 …以上の基本方針を確認し、区民にも周知

防災の近所活動で、弱者の車での避難移送訓練等を実施したことは、その後の支え合い事業の円滑な展開につながった。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

なんでやるの ⇒ そこに待つ人がいるから という単純な構図。
大規模なイベントをやるでもなく、楽しくスマートに多くの方々の支援が集まるように「りんりんちょボラ」の精神、「みんなであつとずつボランティア」を実現できるよう意識して対応しています。
こども食堂の野菜提供者も大切な「りんりんちょボラ」さん！食堂にご招待。お出かけ支援の車中は日頃の不満を聞いてもらえるストレス解消の場に・・・たぶん「楽しい」がキーワードであろう。
お互いさんやんか・・・と言われても、いつかお返しをと考えるのが常人！その気遣いをしないための手法が寄付文化の醸成。お出かけ支援で100円、JCB食堂で200円を目安に寄付すれば、しがらみなし！

居場所

愛荘町

いつも気軽に集まりくつろげる場

■活動内容

愛荘町長野地区で民家を改修して居場所づくりを実施

毎月第1、第2、第3月曜日 13時～16時

海の日(祭日) 子どもさんとの交流会

4月第1月曜日 桜見実施

5月開所日 11時～14時記念祭

9月第3月曜日 敬老の日 (おはぎ作り、スタッフと利用者みんなで実施)

12月第3月曜日 クリスマスパーティ実施



■団体名

なごみの郷 代表者 千藤富造

■参加者

7名

■活動拠点 連絡先

愛荘町長野2 1 2 4-6番地
TEL・FAX: 0749-42-6178



■活動のきっかけ・実現までの経緯

長野未来づくりを合言葉に将来のビジョンをまとめた平成16年度の字総会で決められました。地域福祉の大事な取り組みの一つとして、高齢者がいつも気軽に集まりくつろげる場(フリースペース)、又高齢者をはじめ子ども達から区民誰もが自由に集まり使える長野の公共の「家」として県の地域助成事業「あったかほーむづくり事業」があり、協力と支援をいただきました。「長野にとって重要な地域福祉の一環であり、区民総意で取り組むべきものである」と評議員会で決定しました。

区民皆様のご理解を賜り、区民各位のご協力をお願いしてフリースペースの整備費が集まり、平成18年5月13日にオープンして今日に至っています。



利用者さんの声

利用者同士がしたいことを自分たちでできるので、楽しく時間を過ごす事ができます。回数を増やしてほしいです。

活動者の声

開所日には介護保険認定者も来られ、デイサービスに通いながらも、来てくれています。中には麻雀を楽しみに集まれる方もいます。また本の貸し借りや、トランプ、畑の作り方・収穫の話など会話が弾みます。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

開所以来12年になりました、利用者、活動者さんも年齢とともに変化してきました。アンケートを2年に一回取り、少しずつ変えて継続できるようにしています。

また村づくり委員会の組織を残しその一環としての福祉活動の場という位置づけがあり、区からの補助金もあり、安定した活動が継続できています。活動経費としてアルミ缶の回収も実施しています(地域の皆さんが持って来てくれます)。

居場所
生活支援

多賀町

地域生活を支える～おたがいさまの地域づくり～

■活動内容

- 地域サロン活動
週1回 木曜日 9時30分～11時30分
参加費 200円
- 【活動メニュー】
出前講座による学習会、創作活動、屋内外でのレクリエーション、
草花観察会(集落内を歩きながら)、お寺でお茶会 など
- 日常生活上の支え合い、助け合い活動
- ちょっとした困りごと支援活動



■団体名 多賀町大杉地区福祉会・大杉サロン「しゃくなげの会」
福祉会代表 園本彰子

■参加者 区民

■活動拠点
連絡先 犬上郡多賀町大杉190



■活動のきっかけ・実現までの経緯

福祉会が発足後、平成13年からは月1回、地区の公民館でふれあい・いきいきサロンが開催してきました。

平成28年からは町社協からの呼びかけにより「地域ふれあい支え合い事業」にて、週1回の地域サロン開催の他、地域の自発的な見守り、支え合い活動や日常生活上の困りごとの支援、介護予防に関する内容にも取り組んでいます。



利用者さんの声

サロンは、週1回みんなとわいわいおしゃべりしたり活動することができる楽しみな場所、自分で歩いて行ける場所があるのが嬉しい。

元気に参加して、寝たきりや認知症を予防したい。

活動者の声

週1回の地域サロンの他、年に3回(春・秋・冬)地域全体による福祉のつどいを開催しています。

粗大ごみや資源回収も区役員や福祉会メンバーが協力して、高齢者宅等を支援しています。

地域サロンの場所で「野菜等の販売」がされています。近く買い物する場所のない高齢者の生活の助けになっています。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

福祉会のメンバーも参加者もお互いに協力しながら、できる人ができることをする、主体的に活動に参加する姿勢を大事にしながら交流しています。

■活動内容

栗栖地区福祉会は、平成11年に町社協からの呼びかけにより発足しました。福祉会の構成メンバーは、区長、区長代理、老人会会長、民生児童委員、地域福祉推進員、前年の区長や老人会会長、ボランティアで構成しています。

○地域サロン活動

週1回 水曜日 9時30分～13時30分 参加費 300円

【活動メニュー】創作活動(折り紙でカレンダー、壁画製作など)、屋内外でのレクレーション、花壇の花植え、おりがみ紙芝居の練習 など。

・サロンの活動内容については、参加者も交えてみんなで相談し、高齢者からも積極的な意見が出ています。

○日常生活上の支え合い、助け合い活動

○ちょっとした困りごと支援活動



■団体名

多賀町栗栖地区福祉会・栗栖サロン「ヒヤシンス」
福祉会代表 中溝久子

■参加者

区民

■活動拠点
連絡先

犬上郡多賀町栗栖521

■活動のきっかけ・実現までの経緯

福祉会が発足後、平成13年からは月1回、ふれあい・いきいきサロンを地区の会議所で開催している。町社協からの呼びかけにより、平成20年10月から「ふれあい・いきいの家事業」により週1回のミニデイサービスとして、平成28年からは「地域ふれあい支え合い事業」にて、週1回の地域サロン開催の他、地域の自発的な見守り、支え合い活動や日常生活上の困りごとの支援、介護予防に関する内容にも取り組んでいます。

また高齢化率が高まるなか、見守り活動が必要とのことから、水栽培のヒヤシンスの球根を地区の全戸に配布し、ヒヤシンスの栽培を通して情報収集や声かけ等、高齢者の見守り活動を続けています。サロンの活動が周知されてきたことでヒヤシンスの球根を配布する活動は数年前に一時休止となっていますが、現在新たな見守り活動について福祉会メンバーで検討をしています。

利用者さんの声

- ・週1回、身近なところに出かけられる場所があるのは嬉しい。
- ・サロンに来たら、自分でできそうなことは進んでお手伝いするようにしている。
- ・サロンに来るとみんなとおしゃべりできる。来ることができるように、元気で居たいと思う。

活動者の声

- ・週1回の地域サロンの他、秋には地域全体での福祉のつどいを開催しています。
- ・福祉会だより(毎月)を各戸に配布し、活動内容の啓発、見守り活動に努めています。
- ・年間を通して取組める活動を行うなど、活動内容も工夫しています。これまでの活動としては、「おりがみ紙芝居」を参加者みんなで作成し、地区の福祉のつどいなどで発表しました。また、最近では他地区のサロンとの交流会で発表したりしています。今年度は、「手作りかるた」の製作に取り組んでいます。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

月1回、スタッフミーティングを行い活動内容の相談や地域についての情報共有をする中で、サロンの参加者が固定化し、新たな参加者が増えないといったこともあるため、現在のサロンの参加者よりも若い年代が楽しく参加できて、介護予防につながる場所づくりについて検討し、サロンとは別の居場所づくりを考えています。

生活支援・外出支援などの 活動を実施している事例

長浜市

■活動内容

元気かいちょこっとサービス

- ①比較的軽作業 ・電球の交換 ・野菜の収穫
・ごみの分別、ごみ出し ・ガラス拭き ・薬もらい
- ②比較的重労働 ・庭の立ち木の枝切り ・草取り、草刈
・畑の耕し ・玄関の除雪



■団体名	元気かい
■参加者	スタッフ 男性10名 女性11名
■活動拠点 連絡先	長浜市余呉町中之郷956-2 元気かい 会長 三段崎静子 TEL：0749-86-8109 FAX：0749-86-8111

元気かい ちょこっとサービス 始めました!

高齢者のみのご家庭や障害を持つ人を対象に

「元気かい」では、日頃のちょこっとした困り事をお手伝いします

①比較的軽作業
・電球の交換
・野菜の収穫
・ごみの分別、ごみ出し
・ガラス拭き(生活の場)
・薬もらい
料金：1人30分 300円 2人1時間 1,200円

②比較的重労働
・庭の立ち木の枝切り
・草取り、草刈り
・畑の耕し
・玄関の除雪
料金：1人1時間 1,000円
(機械持込み 1,000円) (持ち込みなし 800円)

基本的に2人1組でお伺いします

その他 どんな事でも御一報下さい。ご相談に応じます。

お申し込み先… 元気かい ~ちょこっとサービス~ 連絡先：事務局 ☎080-8519-1500
【後援】余呉福祉の会 受付：9時~17時(日曜日除く)

■活動のきっかけ・実現までの経緯

余呉は高齢化率も高く、ひとり暮らしの高齢者も多い地域です。これからも余呉で暮らしていくには何が必要なのかを考える機会がありました。「自分たちができることから始めよう!」という気持ちで賛同した9人で、平成25年7月に元気かいが設立しました。

高齢者などが日常生活でちょっと助けてほしいことがあれば、元気かいでお手伝いしています。



利用者さんの声

- ・冬季になると除雪が大変です。公道までの除雪をお願いしています。
- ・車庫に荷物がいっぱいになり、このままにしておいては子どもに迷惑をかけてしまうため、掃除を一人ではできないことから、手伝ってもらって助かりました。
- ・畑をするのが好きなんです、今の体では耕すのが難しいので、手伝ってもらいました。

活動者の声

高齢者などが日常生活でちょっと助けてほしいことがあれば、元気かいでお手伝いしています。ちょこっとサービスを利用される高齢者が無料だと気を使われるので、気兼ねなく利用していただけるよう「有償ボランティア」として活動しています。(30分300円) 利用されるひとりひとりに満足してもらえるよう、その都度作業の確認を行うなど心配りを大切にしています。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

余呉で暮らしている高齢者の方が、ちょこっとサービスを利用し、これからも安心して住み慣れた地域で生活してほしいと思っています。

元気かいの活動の支柱は、仲間づくりです。これからも活動する者同士、支え、支えられたりしつつ、活動をしていきたいと思っています。

長浜市



■活動内容

高齢者のみのご家庭や障害を持つ人を対象に、ちょっとした困りごとのお手伝いをします。

- ①比較的軽作業
 - ・荷物の整理 ・ごみ出し
 - ・掃除・炊事の手伝い
 - ・病院の薬もらい、買い物代行
- ②比較的重労働
 - ・庭の立ち木の枝切り
 - ・草取り、草刈
 - ・玄関の除雪
 - ・宅内外の簡単な修理

**高齢者のご家庭や障がいを持つ人を対象に、
ちょっとした困りごとのお手伝いをします!!**

きんたろうサポート会

<p>①比較的軽作業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・荷物の整理 ・ゴミ出し ・病院の送迎、薬取り ・掃除 ・話し相手 ・買い物代行など <p>料金：1人30分 300円 2人1時間 1,200円</p>	<p>②比較的重労働</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庭の立ち木の枝切り(限定はできません) ・草取り、草刈り ・宅内外の簡単な修理 ・玄関前の除雪など <p>料金：1人1時間1,000円 (機械持ち込み1,000円、持ち込みなし 800円)</p>
---	--

※基本的に2人一組でお伺いします。
※草、枝の処分は別途実費となります。
※内容によっては、ご希望に添えない場合もありますので、ご了承ください。

■団体名	西黒田きんたろうサポート会
■参加者	住民サポート会員 男性61名 女性23名
■活動拠点 連絡先	長浜市常喜町500-1 きんたろうサポート会事務局 (西黒田まちづくりセンター内) TEL:0749-62-0381

■活動のきっかけ・実現までの経緯

高齢者より「買い物をする場所までの交通手段がなくて、なかなか買い物に行けない」との声が多く聞かれた西黒田地区。ふるさと振興会議や西黒田地区社会福祉協議会の役員、民生委員や福祉委員など地域の活動者が集まる懇談会で、「みんなで支え合って、いつまでも住みやすいまちにしよう!」との声上がり、平成28年11月に発足しました。

活動を始めた当初は、お買い物ツアーのみでしたが、今では日常のちょっとしたサービスも行っています。



利用者さんの声

自分の目で見て、商品を購入できるので、大変嬉しいです。
道中の車内は、世間話に花が咲き、笑い声が絶えません。お買い物ツアーは、みなさんとの交流の場になっていて、楽しいです。

活動者の声

「出来る事を出来る人が出来る時にする」をキャッチフレーズに、気負わず気張らず、軽い気持ちでボランティアに参加しています。
「ありがとう」の一言が原動力になります。

人気のメニューは毎月第2・4土曜日の13:30からのお買い物ツアーです。参加者を募り、近隣のスーパーやドラッグストアに行きます。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

立ち上げ当初は、「えらいこっちゃ、どうなるんやろ」と不安でいっぱいでした。でも、利用者さんの笑顔と「おおきに」の言葉に、そんな不安も吹き飛びました。気負いせず、「自分ができることで助け合おう」の気持ちで活動しています。

長浜市



■活動内容

高齢者のみのご家庭や障がいを持つ人を対象に、ちょこっとサービスをしています。

- ・家事援助及び子育て支援(宅内外の清掃 等)
- ・外出付添支援(買い物の付添、病院の付添 等)
- ・庭木の手入れ(庭木の手入れ、除草 等)
- ・修理修繕(宅内外の簡単な修繕 等)
- ・その他

■団体名

かんだサポート会

■参加者

活動参加者 男19名 女16名

■活動拠点
連絡先

かんだサポート会事務局
(神田まちづくりセンター内)
TEL: 0749-62-7037



■活動のきっかけ・実現までの経緯

ひとり暮らしの高齢者の、「買い物行くのが不便や〜」という声を受け、地域の困りごとについて何か手助けできることはないかという思いから、かんだサポート会が立ち上がりました。

全住民にアンケートを実施し、要望が多かった活動を中心に、「できることを できる人が できる時に」をコンセプトに活動しています。



利用者さんの声

・お買い物だけではなく、移動中の車内でみんなとおしゃべりするのが楽しみです。

・ひとりでタクシーやバスを利用して外出するのは不安が強くなっている。付き添ってくれるサポーターさんがいてくれると安心です。

活動者の声

神田地区ではますます高齢者が増加する傾向にあり、今以上にきめ細やかな支え合いが必要ではないかと感じています。「地道に周知を続ける」「要望を気楽に出しやすい環境づくり」を基本に、気楽な雰囲気の中で長く活動を続けていきたいと思っています。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

活動を長続きさせるために、「出来ることを、出来る人が、出来るときに、ムリなく」を基本姿勢にしています。ある方曰く、「買い物も身の回りのことも、出来るだけ自分で動いて弱らんように気を付けてるのや」。自活力を保ってもらうことも応援できるサポート会でいたいと思います。

これからも協力者の皆さんと一緒に、ボチボチとやって行きます。

長浜市



■活動内容

●ちよこっとサービス

- ①比較的軽作業 ・電球の交換 ・掃除、炊事の手伝い
 ・野菜の収穫 ・ごみの分別、ごみ出し ・話し相手など
- ②比較的重労働
 ・庭の立ち木の枝切り ・草取り、草刈り ・畑の耕し
 ・玄関先の除雪など

●お買い物ツアー

■団体名	スマイルサポート西浅井
■参加者	支援会員 男性20名 女性4名
■活動拠点 連絡先	スマイルサポート西浅井事務局 (西浅井まちづくりセンター内) TEL：0749-89-1125



■活動のきっかけ・実現までの経緯

平成29年の夏に西浅井地区の全住民を対象にアンケートを実施し、どう
暮らしの困りごとがあるのかのニーズの調査をしました。

その中でニーズとして比較的多く挙げられた、買い物や生活の支援をまちぐる
みで助け合っていけないものかと思い、平成30年2月14日、団体を立ち上げま
した。

お互い様の心で、安心して暮らせる小さな未来づくりに取り組んでいきたいと
思っています。



利用者さんの声

こうして定期的に来ていただくと、予定しておけ
るので、大変助かっています。

毎回楽しみにしています。こういう時に選んで買
うことができるので、たくさん買ってしまいます。あり
がたいです。

活動者の声

買い物ツアーを試験的に実施しています。
実施してみてわかることもあるので、皆さん気兼ね
なく利用していただけるように、回を重ねながら工夫
していきたいと思っています。

ちよこっとサービスにも依頼があれば、対応させて
いただいています。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

団体が立ち上がったばかりで、まだまだスタートラインに立ったところです。
活動をはじめて、みなさんからの笑顔をいただくとやってよかったと思えるということも実感しています。
試行錯誤しながら、ひとつひとつやっていきたいと思っています。

草津市



■活動内容

介護保険の小規模多機能型居宅介護や地域密着型デイサービスなどを運営するとともに、居場所づくりや助け合い活動などを実施しています。
子どもから高齢者まで地域で暮らすすべての人が、安心してこの地域で暮らして
いてよかったなと思える地域づくりを展開しています。

・助け合い事業(お助け隊事業)

地域の人の困りごとに、有償ボランティアさんができる範囲でお手伝い
宅老所心がコーディネートを行い、事前に登録したボランティアさんを派遣
お手伝いの内容は、掃除、買い物(代行や同行)、草刈りなど

料金は1人1時間あたり900円、その他内容により金額は変わります。

■団体名

特定非営利活動法人 宅老所心
理事長 村田美穂子

■参加者

地域住民

■活動拠点
連絡先

草津市駒井沢町343番地
TEL：077-568-3186
FAX：077-558-8225
mail：kokoro115@triton.ocn.ne.jp



■活動のきっかけ・実現までの経緯

地域の方と地域包括支援センター、当法人が集まって地域の中でどのようなものがあればよいかなどを話し合ってもらいました。

その中で、「居場所と助け合いが必要」との意見が出たことから、当法人の事業として地域の方の協力をいただきながら、助け合い事業(お助け隊事業)を立ち上げました。

H22 地域における話し合い
助け合いサポーター養成講座開催
助け合い事業開始



利用者さんの声

・買い物や病院に行くのに困っていたので、付き添っていただき助かる。

・草刈りや庭木の剪定など手間のかかることから、電球の交換などちょっとしたことまできめ細やかに助けていただいている。

活動者の声

ボランティアさんも「自分が助けてほしい時にはお願いしたいので、できる間はがんばる」と言っていた
だいています。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

地域の人同士の助け合いなので、「それぞれのできる範囲でする」「無理はしない」が事業を継続するコツだと考えま
す。公的サービスでは対応しきれない部分が生活の中では必ず出てきます。そのニーズは、今後ますます必要になっ
てくると思います。

ちょっとした困りごとに手が行き届くよう、地域の方とともに助け合いの輪を広げていきたいです。

高島市



■活動内容

朽木外出サポート隊は、自力で通院できない方で家族の支援が困難な方に対し、朽木診療所への通院をお手伝いします。自宅から診療所へ送迎し、帰りに朽木内の金融機関や買い物に寄ることができます。

- 毎週第3木曜日 9:00～ 朽木支所にて定例会
- 会員相互の助け合い
 - ・おたすけ会員……運転手
 - ・のせてって会員……利用者
 - ・賛助会員……協力者
- 年会費1,000円
- 利用料 1km20円 往復40円+保険20円=60円

■団体名	朽木外出サポート隊
■参加者	区民
■活動拠点 連絡先	高島市勝野215（事務局・高島市社会福祉協議会） 代表 小坂 一郎 TEL：0740-36-8220 FAX：0740-36-8221



■活動のきっかけ・実現までの経緯

市場在住の80歳代の方が、老人車を押しての通院が困難になり、福祉タクシーや、タクシーに依頼するも、距離の問題などで利用できず、ケアマネから「助けてくれる人、組織を作ってほしい」と相談されたのが、きっかけです。

朽木住民福祉活動計画にも「送迎のしくみ」について記載されているため、今は一人の問題であっても、いずれ地域の問題になるということで、ボランティアや専門職に呼びかけ、一緒に組織作りが始まりました。



利用者さんの声	活動者の声
<p>料金も安く、非常に助かっています。この取り組みをたくさんの人に理解、協力してほしいと思います。とてもありがたいです。</p>	<p>メンバーの意識が高い。「明日は我が身」「今できることで誰かの助けになると良い」。とてもやりがいがあります。</p>

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

実行に至るまで、メンバー全員が納得するまで時間をかけて話し合いました。また毎月の定例会で、情報共有をしっかりと行っています。

「寄り合い処くつき」への送迎の活動に広がれば良いのですが、まだまだ時間がかかりそうです。また、朽木外への送迎希望の声も聞こえています。

高島市

活動のしくみ



■活動内容

たすけあい高島は、地域住民による会員同士が助けたり助けられたりする助け合い活動をお手伝いしています。

掃除や調理、お庭の草ひきや剪定、見守りなど、暮らしの中の困りごと対応を必要とする「よろしく会員さん」のお宅へ、たすけあい高島にご登録の「まかせて会員さん」がお伺いして活動します。

会員登録は無料。ご利用は1時間800円、30分ごとに400円加算されます。また旧町村をまたがる場合は別途交通費200円が必要です。

■団体名	特定非営利活動法人元気な仲間 たすけあい高島 代表者 谷 仙一郎
■参加者	会員制（まかせて会員251人・よろしく会員316人）H29
■活動拠点 連絡先	高島市新旭町旭1-8-5 エスパ内 TEL：0740-33-7805 FAX：0740-33-7806 mail：tasukeai@npo-genki.com



■活動のきっかけ・実現までの経緯

行政に頼るだけでなく、地域の住民自らが地域のためにできる事を、協力して行っていきながら、地域の仲間が元気に過ごせる、そんなまちづくりのきっかけになればとの想いで設立しました。

会員の方からは、「自分が得意でできる事をやって、やりがいもある上に、ありがとうと言ってもらえる事が本当に嬉しい」と揃って言っています。

事務局運営で心掛けていることは、この仕組みを地域の皆さんに理解頂き、より円滑に活動の輪が広がる様に、地域住民のネットワークを繋げていく事です。



利用者さんの声 <よろしく会員さん>

ご近所の方が認知症の母の見守りをサポートするのに「たすけあい高島」を紹介してくれました。

母が家で一人になる時間に話し相手になってもらったり歌を一緒にうたってもらったり見守りをお願いしています。安心して仕事に出ることができます。何よりも母の笑顔が増えました。

活動者の声 <まかせて会員さん>

何かお役に立てればと講座を受講し、会員として活動させていただいています。

掃除・食事作りという私にとって不得意分野の活動ですが、先方の温かい心遣いと「ありがとう」の言葉に逆に感謝しつつ続けていければと考えています。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

できない理由を考えるより、できたイメージを思い浮かべましょう。自分たちのまちに、何が必要か、何があったらいいのか考えながら、仲間とともにまず動いています。自分たちでできることは、自分たちで何とかしていこう！あったらいいな！！を地域の力で手づくりする、地域の輪が広がればいいと思います。とにかく楽しみながらすすめていきましょう。

地域の皆さんから求められることや、地域の皆さんの笑顔がころづよい後押しになります。活動継続のための資金確保も、介護保険事業等他の事業と合わせて考えています。



■活動内容



ほんなら堂(Do)活動は、暮らしの中で発生する困りごとの一部を解決する取り組みです。具体的には、病院までの通院や同行・ゴミ出し・お部屋の掃除・草刈り・買い物代行などの支援を行います。

サービスを利用したいと依頼が入るとコーディネーターが訪問し、依頼内容の確認を行います。依頼内容に基づいてサポーターを派遣し、困りごと解決の支援にあたります。

利用者はサービス利用に応じて利用料を支払い、利用料はサポーターに支給されます。

■団体名	あいとうふくしモール
■参加者	あいとうふくしモール運営委員会とほんならサポーター
■活動拠点 連絡先	東近江市小倉町1830 TEL：0749-46-2170



■活動のきっかけ・実現までの経緯

あいとうふくしモールは、「食」と「ケア」と「エネルギー」が充実した、「地域の安心の拠りどころ」を目指して活動しています。暮らしの中で起こる「ちょっとした困りごと」を解決する取り組みとして、ほんなら堂(DO)活動がはじまりました。

あいとうふくしモールの運営を行っている3つの事業所が資金を出し合い、コーディネーターを雇用しています。具体的にどのような困りごとが発生しているのかを知るために、民生児童委員さんや介護支援専門員の方々に聞き取り調査を行ったり、サポーター交流会などを開催しています。また、サポーターさん向けに高齢者の方との関わりの基本的なことを学べるサポーター養成講座なども実施しています。



利用者さんの声

- ・足が悪く、家の掃除も思うようにできないが、きれいな台所で新しい年を迎えたいと思い、年末に台所掃除を頼んだ。きれいな台所で新年を迎えられ喜んで。今度は病院や買い物の送迎を利用したい。(86才女性)
- ・体のあちこちが痛く動けない時に、買物と光熱費の支払いをお願いした。本当にありがたい。(85才女性)

活動者の声

- ・掃除の手伝いに行ったが、おしゃべりしている時間の方が長かったり…楽しいです！
- ・退職後に、自分のペースで活動しています。サポーター交流会も開催され、他のサポーターとも仲良くなれます。
- ・利用者さんが喜んでくれると、それでいいんです。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

安定した運営を続けていくことが何よりも重要であり、継続してはじめて暮らしのサポートが可能になると考えています。継続するためには、多くの方からの支援が必要です。多くの方からの支援を受けるためには、信頼されること、ほんなら堂(DO)の活動が必要であると思っただけのことです。

誰かのためにサポートをしているのではなく、この事業の継続が自分自身のためになるものと認識され、多くの方がサポーターとして参画されることが重要です。このため、成功体験を多くの方と共有する取り組みを並行して行うことが必要だと思われます。

県下全域

■活動内容

生協は、住民の願いから事業を起こし、参加に基づいて運営する事業体です。事業と活動の結びつきの下、様々な人間的協同を生み出すことで、地域社会づくりに取り組むことのできる組織です。協同組合の価値としての「自助」を地域に広げ「共助」へと高めることを通して、地域を豊かにするとともに、一人一人の生活が守られる公助としての社会保障についても、生活者の組織として社会的発言を進める役割を持ちます。

サポートA(一般的な活動) 1時間1,080円・サポーター応援料700円

サポートB(知識や技術、体力必要) 1時間1,512円・サポーター応援料1,000円



■団体名	生活協同組合コープしが 「ささえあいサポート」 代表者 理事長 西山 実
■参加者	サポーター数1,877人
■活動拠点 連絡先	大津市真野5丁目33-25 コープしが福祉ネットワークセンター TEL: 0120-294-589 FAX: 077-574-1570 mail: sasaeai@coop-shiga.or.jp

■活動のきっかけ・実現までの経緯

地域のつながりが希薄化する中で、私達の暮らしには様々な「困りごと」が生まれています。そんな背景を受けて、生協の組合員どうし、お互い様の気持ちで手を貸しあいましょうという趣旨でささえあいは始まりました。組合員の新たなつながりとして、購買だけでなく生活そのものでつながることでよりよい地域づくりを目指しています。

2002年、暮らしの困りごとを聴く「ふくし情報電話」の開設により、ちょっとした困りごとほど頼めるところや人がいないこと、制度に当てはまらない困りごとの存在が組合員の声により明確になりました。その後、2006年大津市北部で組合員どうしの有償の相互扶助制度「ささえあいサポート」を開始。2008年には滋賀県全域に「ささえあいサポート」を拡大実施しています。



▲入院中の利用者さんの愛犬を散歩中

利用者さんの声

空室になった実家の手入れを（風通し、掃除、水道等）お願いしています。私は月に一度程度帰ってきますが、即気持ちよく今まで暮らしていたかのように滞在ができます。

サポーターさんのいろいろな気配りも主婦目線で助かっています。この様なサポートの仕組みとサポーターさんに日々感謝しています。

活動者の声

家事補助として主にお掃除のお手伝いをさせて頂いて、4か月が経ちました。ここまで続くとは思っていませんでしたが、毎回ここも綺麗にしよう！と思いながら楽しくサポートをしています。これもご利用者様がとても優しく、いつもお話しして下さること、事務局の方やコーディネーターさんが日程の調整を下さるからだと思っています。

これからも出来る限りですが、サポートを続けたいと思います。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

コープしがは、福祉を広くとらえ、高齢・介護、障がい、子育て、生活困窮といった暮らしの課題を個別にとらえるのではなく、一人ひとりの人が、社会的なつながりの中で、その人らしさをもって幸せに生きられることと考えます。

人はみんな一生を通して人間力を発揮することができるという人間尊重の理念に立ち、よりよい暮らしを共につくる協同としての福祉を継続的にめざしています。

子どもの見守り・居場所
などの活動を実施している
事例

湖南省



■活動内容

サイドタウン自治会の住民とその愛犬が、わんわんパトロールの隊員、隊犬となり活動を行っています。

- 活動日・日時 児童・生徒の通学日・通学時
- 活動場所 ハイウェイサイドタウン自治会区域内
- 活動メンバー 隊員64名 隊犬77頭
- 活動目的 児童・生徒の通学安全

○活動内容
隊員と隊犬(マイ犬)が通学路に向いて交通安全や不審者見守りを行い、あわせて児童・生徒とのふれあいを行っています。

■団体名

わんわんパトロール
代表者 友野 幸雄

■参加者

サイドタウン自治会住民とその愛犬

■活動拠点
連絡先

湖南省ハイウェイサイドタウン自治会館
連絡先 竹澤 克彦
TEL：0748-74-2897



■活動のきっかけ・実現までの経緯

活動は自治会のサークル活動に位置付けられ、2015年9月1日に発隊式が行われました。隊員は多世代ですが、高齢者が約6割を占めています。
友野隊長が20年前から続けておられた「歩く110番」「児童のみまもり」活動・愛犬を連れた通学安全の取り組みを何とか地域に活かしたい、と思っておられた当時の竹澤区長が、甲賀市のわんわんパトロールの活動を知り、菩提寺北小学校と甲賀警察署に相談されたのがきっかけです。
湖南省教育長も参加され、発隊式も行われました。新聞でも紹介され、自治会への周知も図られました。
活動も大きな制約はないので、隊員・隊犬も徐々に増え、現在に至っています。



利用者さんの声

スクールガードの活動・あいさつや声掛けをしながらの通学安全や不審者対応は高齢者と児童生徒とのやりとりだが、そこにわんちゃん加わることで、より柔らかく自然な活動となっている。

活動者の声

自治会で災害マップづくりに取り組んだ時、子ども目線が必要ということになった折、我が家の隊犬を連れた子どもたちが調査に協力した。
隊の活動はサイドタウンニュースにも載せてもらい、25関係機関・団体に配布している。また広報こなんや新聞等でも紹介されている。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

私たちのわんわんパトロール隊の取り組みや青パト隊の活動で、あきらかに不審者の出没が減りました。これからはオレオレ詐欺の防止の活動にわんちゃんと一緒に取り組めないかと話しています。

子ども居場所
子ども見守り

高島市

学校からの帰り道、みんなで宿題やっています

■活動内容

安曇川町藤江区は97世帯、小学生が23名。学校からの帰り道、ほとんどの子どもが「子どもの家」に寄って宿題を済ませて帰っていきます。

異学年で教え合ったり折り紙や絵を描いたり、遊ぶ約束をしたり、交わり合い子どもの居場所となっています。

- ①毎日の学習 学校帰りによって宿題をしていく。
土曜日 希望者
- ②長期休業中もほぼ毎日宿題をします。
- ③振り買え休日や長期の休みなどに、一緒にご飯を食べたり遊んだり、時にはお年寄りとも一緒に食事をする
- ④勉強会(認知症、自然のこと)



■団体名	藤江区の「子どもの家」
■参加者	藤江区の小学生
■活動拠点 連絡先	高島市安曇川町藤枝 梅村 頼子 TEL：090-8466-6881

■活動のきっかけ・実現までの経緯

退職をして、地域の福祉推進員に所属し、サロン活動に参加しました。その中で地域のおばあちゃんたちの「宿題をしてもするだけで、なかなかおばあちゃんの言うことは聞かない。間違いやきたない字もそのまま。遊びたい、すぐゲームに走る。何とかならないだろうか」との声に、何か出来ればとの思いを抱いたのが始まりです。

本庄小学校から下校する道筋にある自宅で「子どもの家」を開設し、現在5年目になります。始める前や現在も、常に学校との連携を図っています。



利用者さんの声

【子どもの声】

- ・集中して学習ができる。
- ・分からない時にすぐに聞けるからいい。
- ・宿題やすることなどお互いに確認し合える。

【大人の声】

- ・支援の必要な子とのマンツーマンのかかわりで着実に伸びている。
- ・子どもの見守りに役立つ。
- ・子ども達同士の繋がりが広がる。
- ・協力者ができた。

活動者の声

長年の教職経験を活かして地域で子どもを見守り育んでいきたいと思いました。行儀や挨拶、集中して学習をすること。子ども同士のふれあい、ぶつかり合いを大切に、人と人の関わりを大事にしてほしいです。

子どもの頃に地域の人と関わり、たくさんの体験と心に残る思い出を、と「高島子どもの宿」を実施しました。夏休みには、子ども達が企画した「子どもカフェ」を開き、お年寄りとの交流も図っています。

「大人になったらボランティアをして地域の人に役立つような人になりたい」と思う子どもも出てきたのも嬉しいことです。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

一人では何もできない、協力者がいてくれるから継続できています。子ども達には、押し付けない、気長に付き合うことが大事、学校は学校で、地域では地域での対応があり、教師でいてはいけないと思っています。

自分の特技や好きなことを活かして、楽しみながら子どもを育み、見守る地域の仲間が、各地にも広がればと思っています。

除雪の活動を実施している 事例

除雪

彦根市



雪が降っても、安心して暮らせるように

■活動内容

開催日時:降雪時

場所:希望者宅

内容:除雪

対象:太平団地にお住まいの80歳以上の独居もしくは夫婦のみの世帯
障害者で除雪を希望される世帯
※平成30年12月末現在、15世帯からの希望あり

■団体名

太平団地除雪ボランティア
代表者 宮田茂

■参加者

利用者:市内(太平団地)の希望世帯 / 活動者:15名

■活動拠点 連絡先

社会福祉法人彦根市社会福祉協議会
地域福祉課地域サポート係
TEL:0749-22-2821 FAX:0749-22-2841
mail:hikoshachiiki@mirror.ocn.ne.jp

■活動のきっかけ・実現までの経緯

平成27年に開設された「サロン」は「待ち」の活動であり、反対に「出向く」活動で地域のために何かできないものか、と仲間と話し合いを行いました。その中で無理なく継続的に続けられる活動をと考えたところ、当団地は降雪も多く、場所によって吹き溜まり約30cmの積雪があり、高齢化で除雪もままならない世帯もあります。そのため家の出入りも不自由されていることをお聞きし、「除雪ボランティア」の立上げを行うことになりました。

活動にはマンパワーが必要であるため回覧板で募集したところ、主旨をご理解いただいた10人が参加くださることになりました。

利用者さんの声

私は数年前に夫を亡くした後期高齢者です。

今は独居生活をしていますが、雪が降る季節になると「雪かき」をすることが体力的に不安で、数cm雪にも辛い思いをしていました。しかし、4年前に除雪ボランティアの方々から早期から行っていただくことになり、今ではとても助かっています。聞けば、このような活動をしているのは彦根市で私たちの団地だけのようにお聞きしており、この太平団地に住んでよかったと思っています。

ボランティアの皆様には大変感謝しております。ありがとうございます。

活動者の声

除雪ボランティア活動を開始し今年で4年目の冬を迎えます。当初は除雪希望世帯は8戸でしたが、年々その数も増え、平成30年末には15世帯となりました。毎年12月末時点で80歳以上の独居もしくは夫婦だけの世帯・障害者で除雪を希望される世帯を対象に、活動を行っています。

活動内容は、団地の中において概ね10cmの積雪が発生した時、連絡網にて担当世帯ごとに作業を開始します。具体的には、玄関から生活道路までの除雪と安否確認です。

当該世帯には事前に了解をとっていますので、門扉を開けて除雪を行っていますが、安否確認については屋間に声かけをさせていただいております。早朝の作業時には就寝中の方もおられるので、チャイムを押してまでは行っていません。

日によって1日何回も除雪作業する場合がありますが、当該世帯の方と道等で出会った時に「先日は雪かきしてもらっておおきに！」と声をかけて下さった時には改めてやりがいを覚えます。

これからますます高齢化が進む太平団地で、「向こう三軒両隣」「遠い親戚より近くの他人」を合言葉に、仲間と共に弱者と寄り添いながら除雪活動を続けていきたいと思っています。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

太平団地は今から約40年前に分譲が開始、若い年齢世帯が移り住んでまいりました。当初、団地内は子どもの黄色い声があちこちから聞こえてきましたが、今では学区内で高齢化率が最も高い地域となりました。このような現実にあって、お互いに助け合うといった相互扶助の機運が高まってまいりました。

現在は15人の高齢者の仲間と活動を行っていますが、持続するには若い人に活動の大切さを理解してもらい協力いただくことが大切であり、機会があるごとに積極的に周知していきたいと考えております。

何かの縁でこの太平団地に住まいするようになった者同士が、支え合いながら手を取り合って安心して住める地域にしたいと思っています。